

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(平成 27 年度事業)

平成 28 年 8 月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
II	山元町教育委員会の活動の概要	1
1	教育基本方針	1
2	教育重点施策	2
(1)	学校教育の充実	2
(2)	社会教育の活動推進	3
(3)	地域文化の保護と活用	3
(4)	社会体育と生涯スポーツの振興	4
III	主な事業の点検評価項目	4
1	教育委員会の活動	4
2	教育関係経費決算の状況	8
3	学校教育の充実	10
(1)	山元町立山下第二小学校の再建に向けて	10
(2)	山元町いじめ問題対策連絡協議会の開催について	11
(3)	小学校及び中学校における教育活動等の評価について	12
(4)	学校給食の概要について	44
4	生涯学習の推進	46
(1)	生涯学習の充実	46
(2)	生涯スポーツの推進	53
(3)	魅力ある地域文化の醸成	55
(4)	社会教育・社会体育施設の活用	58
(5)	社会教育施設等の整備計画	59
IV	点検評価に対する学識経験者の意見	63
V	参考法令	68

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検及び評価の対象

平成 27 年度の山元町教育委員会が所管する事業を対象としました。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、平成 27 年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、実施にあたっては、山元町教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を毎年山元町議会へ提出し、かつ公表するものとします。

II 山元町教育委員会の活動の概要

1 教育基本方針

平成 27 年度における山元町の学校教育・社会教育の原点は、先の東日本大震災の被災状況にある。このことを踏まえて、「山元町震災復興計画」（第 5 次山元町総合計画）に沿った課題解決を最優先に据えて、学校、家庭、地域、そして教育委員会の総力を挙げて継続的に取り組むこととする。

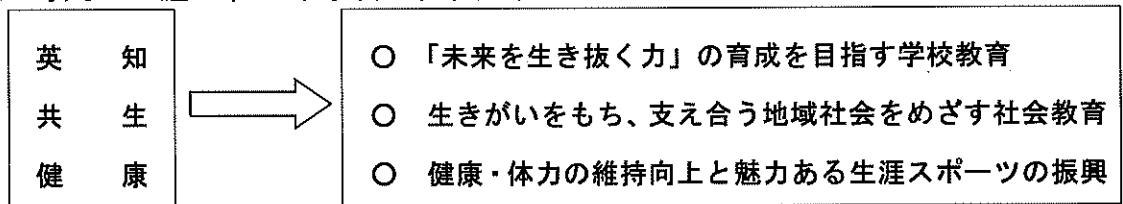
学校教育については、津波で被災した学校の併設解消に向けた具体的取組を加速させることが喫緊の課題となる。復興とともに災害公営住宅や新市街地等に転居される動きも見られるが、未だ仮設住宅や区域外等から通学する児童生徒もいる現状である。従って、住環境や家族関係の変化に伴う児童生

徒や保護者の心理的・経済的な負担等にも配慮しながら教育活動を展開していくものとする。さらに、大震災の教訓を風化させることなく、これらの経験からなすべきことを見つめ一歩前へ進めるため、より一層学校と地域との協働を推進する。

また、社会教育については、多様な生涯学習、文化、スポーツ・交流活動に対し積極的に支援するとともに、地域づくりの活動リーダーの育成を図る。さらに、復興事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を迅速に推進するため、体制の充実を図り、正確な記録保存に努める。

以上のような考えを基に、基本方針等は下記のとおりとし、その具現化に努める。

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成をめざすとともに町民の生涯にわたる学習の充実に努める。



2 教育重点施策

学校教育・社会教育の推進

～家庭・地域・学校の協働のもとで夢と志を育む～

学校教育と社会教育が連携・協働して教育基盤の再構築を図り、町民一人一人が自己実現をめざし、健康で生きがいに満ちた生涯学習社会を実現するために、次の施策を行う。

(1) 学校教育の充実

①未来を生き抜く力を育む創意ある教育課程の編成・実施・評価

- ・基礎的な学力の定着と活用する力の伸長及び個性を伸ばす主体的・体験的学習の展開
- ・震災経験を生かした志教育・心の教育・防災教育の推進
- ・健康な身体をつくるための基礎体力づくり、食育の充実、薬物の正しい理解の推進
- ・一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実と障害のある児童生徒の自立支援

- ・町の自然、歴史、伝統文化等への理解を深めるためのふるさと教育の推進
- ・道徳的実践力を育むための道徳教育、情操教育の推進
- ・情報化、国際化に対応した教育の推進

②創意と活力に満ちた学校経営と信頼される教職員

- ・児童生徒の夢や志の実現をめざす特色ある学校、魅力ある学校経営の推進
- ・学校評価等を生かした、家庭・地域に開かれた学校づくり、家庭教育との連携推進
- ・心のケアへきめ細やかな配慮及びいじめや不登校のない学校・学級づくりの推進
- ・教職員としての使命と責任の自覚及び資質向上をめざした研修の充実

③学習環境の復旧・支援体制の強化

- ・校舎、屋内運動場、プール等の施設・設備等の整備充実
- ・地域防災の視点に立った危機管理体制の整備と安心・安全な学校づくりの推進
- ・主体的な進路選択の指導
- ・児童生徒の健全育成に係わる関係機関との連携

(2) 社会教育の活動推進

家庭・学校・地域・関係機関等と連携を密にした活力ある社会教育を推進する。

- ・青少年の健全育成の推進
- ・社会教育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ・協働教育事業の充実と社会参加の奨励
- ・学習意欲の高揚と学習活動への支援
- ・コミュニティ意識の醸成と地域づくりへの支援

(3) 地域文化の保護と活用

かおり高い芸術文化とのふれあいと創造を図るため、文化財の保護と活用に努め、次世代への継承支援を図る。

- ・芸術文化活動への理解と啓発促進
- ・参加し創造する芸術文化活動の支援
- ・郷土の伝統文化の保護と後継者育成の支援
- ・文化財の保存・継承と活用及び史跡の環境整備の促進
- ・復興事業等に伴う遺構や言い伝えの保存、埋蔵文化財の発掘保存

(4) 社会体育と生涯スポーツの振興

町民の主体的スポーツ活動を支え、活力ある地域社会をめざし生涯スポーツの振興に努める。

- ・社会体育施設・設備の適正な維持管理と効率的活用
- ・町民総参加による生涯スポーツの振興
- ・社会体育関係団体の組織活動の活性化
- ・スポーツ指導者の育成と体制の整備

Ⅲ 主な事業の点検評価項目

1 教育委員会の活動

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した5人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。教育委員会には教育長が置かれ、教育委員会の指揮監督のもとにその事務を執行します。

教育委員会の会議は、毎月下旬に定例会を開催し（必要に応じて臨時会を開催します。）、各種議案の審議がなされるほか、教育長報告として各課の行事予定や実績報告等を行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

なお、この訪問の際には、学校給食の試食や授業参観等の場を設けるなどして、指導・助言を行います。

(1) 教育委員会委員

職名	氏名	任期
委員長	大内悦夫	平成24年4月1日～平成28年3月31日
職務代行者	島田さゆり	平成21年7月1日～平成29年6月30日
委員	荻原美智絵	平成25年10月1日～平成29年9月30日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～平成30年9月30日
教育長	森憲一	平成22年5月17日～平成28年9月30日

*大内委員は、平成28年第1回町議会で再任され、任期は平成32年3月31日までです。

(2) 定例会の開催について

区分	期日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回定例会	平成27年4月24日	① 平成27年度山元町組織体制について ② 平成27年度山元町臨時職員（教育委員会関係）の採用について ③ 山元町社会教育委員の委嘱について ④ 山元町スポーツ推進委員の委嘱について

		⑤ 通学区域における調整区域について
第2回定例会	平成27年5月25日	① 平成27年度スポーツ推進委員の会議について ② 山元町奨学金貸与選考委員会委員の委嘱について ③ 山元町障害児就学指導審議会委員の委嘱について ④ 山元町立学校給食運営審議会委員の委嘱について ⑤ 山元町いじめ問題対策委員会委員の委嘱について
第3回定例会	平成27年6月22日	① 平成27年第2回議会定例会について
第4回定例会	平成27年7月28日	① 奨学金の償還事務の状況について ② 平成28年度使用教科用図書の採択について
第5回定例会	平成27年8月25日	① 山元町文化財保護委員会について ② (仮称)坂元地区地域交流センター施設整備事業について ③ 中浜小学校震災遺構パブリックコメントの概要について ④ 山元町教育委員会に関する点検評価報告書について ⑤ 山元町文化財保護委員会への諮問(案)について
第6回定例会	平成27年9月25日	① 平成27年第3回議会定例会について ② 産建教育常任委員会説明資料について ③ 全国学力・学習状況調査結果について
第7回定例会	平成27年10月26日	① 社会教育委員の会議について ② (仮称)坂元地区地域交流センター建設意見交換会について ③ 山元町いじめ防止基本方針の決定について
第8回定例会	平成27年11月25日	① 障害児就学指導審議会の会議報告について ② (仮称)坂元地区地域交流センター建設意見交換会について ③ 平成27年第4回議会定例会議案について
第9回定例会	平成27年12月25日	① 平成27年第4回議会定例会について ② 社会教育委員の会議について ③ 文化財保護委員会について
第10回定例会	平成28年1月25日	① 一般事務報告

第11回定例会	平成28年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化財保護委員会の会議結果について ② 合戦原遺跡「線刻画」移設保存検討経過について ③ 県費負担職員の人事について ④ 平成27年度3月補正予算(案)について ⑤ 平成28年度山元町教育基本方針について ⑥ 山元町立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について ⑦ 山元町公民館管理運営等に関する規則の一部を改正する規則について ⑧ 山元町教育振興基本計画策定委員会設置要綱について ⑨ 山元町いじめ問題対策委員会設置要綱を廃止する訓令について ⑩ 平成28年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について ⑪ 文化財の指定の解除に関し議決を求めることについて ⑫ 山元町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱及び任命について ⑬ 社会教育指導員の選任について
第12回定例会	平成28年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成28年第1回山元町議会定例会について ② 平成27年度学校給食運営審議会の会議報告について ③ 平成27年度第1回いじめ問題対策連絡協議会の会議報告について ④ 坂元・山下地域交流センターの設計概要について ⑤ 山元町立山下中学校区学校給食費の共同会計処理に関する規程について ⑥ 山元町立児童生徒就学援助実施要綱の一部を改正する告示について ⑦ 山元町教育相談員の委嘱について

(3) 臨時会の開催について

第1回臨時会	平成27年7月14日	① 平成28年度使用教科用図書の採択計画書について
第2回臨時会	平成28年3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ① 県費負担教職員の人事について ② 一般職員の人事について ③ 職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて

(4) 山元町総合教育会議の開催について

期 日	会 場	主 な 議 題 等	出席者
平成 27 年 5 月 25 日	第 1 会議室	1 町総合教育会議の運営について 2 教育等の振興に関する施策の大綱について 3 町いじめ防止基本方針について 4 意見交換等	町長、教育委員 5 名
平成 27 年 10 月 26 日	講義室	1 町いじめ防止基本方針について 2 町教育振興基本計画策定について 3 今後の教育課題等について	町長、教育委員 5 名

平成 27 年度は、地教行法の一部改正、いわゆる教育委員会制度の改正によって、初めての総合教育会議が開催されました。構成は、町長と教育委員であり、年 2 回開催されました。

5 月に開催された 1 回目は、教育等の振興に関する施策の大綱を策定し、併せて児童生徒の生命、身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置として町いじめ防止基本方針等について議論し、方向性を示すことができました。

2 回目は、その町いじめ防止基本方針等についての内容等を確認しました。また、平成 29 年 3 月までに、町の教育の目指す基本的な方向と目標を明確にし、その実現のための施策を策定することを協議しました。さらに、教育課題等について様々な意見が交わされ、特に人材育成の観点からの意見交換ができました。

町総合教育会議は、町長と教育委員が教育行政の大綱や重点的に講ずべき施策等について協議・調整を行う場であり、今後も両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行にあたることを期待されていることを肝に銘じて取り組んでいくことが確認されました。

(5) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
平成 27 年 6 月 22 日	山下小学校 山下第二小学校	・給食試食（山下小学校） ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成 27 年 8 月 25 日	坂元公民館、茶室、 体育文化センター、 埋蔵文化財発掘現場	・現場説明・意見交換等
平成 27 年 9 月 25 日	坂元中学校 山下中学校	・給食試食（山下中学校） ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成 27 年 10 月 26 日	深山山麓少年の森、中央公民館、 勤労青少年ホーム、歴史民俗資料館、 ふるさと伝承館	・現場説明・意見交換等

平成 27 年 11 月 25 日	坂元小学校 山下第一小学校	・給食試食（坂元小学校） ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
-------------------	------------------	---

(6) 教育委員の研修会等への参加

期 日	研修会等名	会 場	参加者
平成 27 年 5 月 26 日	仙台管内教育委員会協議会研修会	明石台小学校	荻原、齋藤、森
平成 27 年 11 月 10 日	宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会全体会議	仙台市民会館	森
平成 27 年 11 月 12 日	仙台管内教育委員会協議会教育委員研修会	塩竈市公民館本町分室	全員
平成 27 年 11 月 20 日	宮城県町村教育長会研修会	宮城県自治会館	大内、齋藤、森
平成 28 年 1 月 29 日	宮城県市町村教育委員会協議会教育委員・教育長研修会	ホテル白萩	荻原、齋藤、森

毎月の教育委員会定例会は、当初予定した通り実施し、その中で各活動等の報告を説明し、必要な議案についても慎重に議論して進めることができました。

また、教育委員による各小中学校訪問も 3 回に分けて実施し、校長の学校経営方針、特色ある教育活動、生徒指導の現状、そして課題等について説明を受け、その後授業参観等をし、さらに意見交換等を行うなどして、より望ましい方向性を確認することができました。

生涯学習施設・体育施設についても 2 回に分けて訪問し、現場での説明を受け、現況や運営の課題等について意見交換等を行うことができました。

2 教育関係経費決算の状況

平成 27 年度決算額は、教育費 4 億 9,244 万 5 千円、前年度比 20.8 パーセントの増加でした。

主な増加理由としては、社会教育費のうち、文化財保護費が民間事業者による開発（土砂採取）に伴う埋蔵文化財発掘事業により増加したものです。

なお、東日本大震災の影響による災害復旧費、文教施設決算額は 10 億 6,621 万 4 千円です。

○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 27 年度		平成 26 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	74,197	15.1	63,417	15.6	10,780	17.0
小学校費	89,668	18.2	84,169	20.6	5,499	6.5
中学校費	137,494	27.9	117,984	28.9	19,510	16.5
幼稚園費	11,514	2.3	9,338	2.3	2,176	23.3
社会教育費	168,281	34.2	123,596	30.3	44,685	36.2
保健体育費	11,291	2.3	9,193	2.3	2,098	22.8
教育費 計	492,445	100	407,697	100.0	84,748	20.8
文教施設災害復旧費	1,066,214		301,040		765,174	254.2
教育関係経費 合計	1,558,659		708,737		849,922	119.9

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 27 年度		平成 26 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	191,043	38.8	162,984	40.0	28,059	17.2
物件費	236,026	47.9	186,525	45.8	49,501	26.5
維持補修費	10,575	2.2	7,336	1.8	3,239	44.2
扶助費	29,055	5.9	27,847	6.8	1,208	4.3
補助費等	20,891	4.2	18,261	4.5	2,630	14.4
普通建設事業費	1,712	0.3	917	0.2	795	86.7
積立金	2,303	0.5	2,627	0.6	△324	△12.3
貸付金	840	0.2	1,200	0.3	△360	△30.3
教育費 計	492,445	100	407,697	100.0	84,748	20.8
文教施設災害復旧費	1,066,214		301,040		765,174	254.2
教育関係経費 合計	1,558,659		708,737		849,922	119.9

*遠距離通学に伴う通学費補助

(単位：円)

学校名	【平成 23 年度】			【平成 24 年度】			【平成 25 年度】		
	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額
坂元小学校	3	3	39,525	1	1	49,105	2	2	114,606
中浜小学校	6	9	57,351	3	3	152,895	—	—	—
山下小学校	3	4	15,320	3	3	121,700	1	1	88,830
山下第一小学校	13	18	280,365	4	5	74,082	2	2	18,305
山下第二小学校	46	57	651,033	7	8	140,741	4	7	59,958
坂元中学校	14	15	342,719	5	5	209,122	3	3	52,211
山下中学校	41	42	910,796	13	15	483,716	6	6	239,203
合 計	126	148	2,297,109	36	40	1,231,361	18	21	573,113

学校名	【平成 26 年度】			【平成 27 年度】		
	世帯	人数	金額	世帯	人数	金額
坂元小学校	2	2	6,210	4	6	53,776
中浜小学校	—	—	—	—	—	—
山下小学校	0	0	0	0	0	0
山下第一小学校	1	1	11,760	0	0	0
山下第二小学校	4	9	35,693	4	4	47,992
坂元中学校	3	3	45,097	3	7	14,674
山下中学校	6	6	297,879	2	4	70,226
合 計	16	21	396,639	13	21	186,668

震災の影響により、町内の小・中学校に遠距離通学を行う児童生徒の保護者に対し、通学に要する費用の一部を補助しました。

また、震災により被災した児童生徒の保護者に対し、「被災児童生徒就学援助制度」により、学用品費や学校給食費の一部を助成しました。

年ごとに対象者数は減少していますが、児童生徒の学校に対する愛着を受け止め、さらに保護者負担の軽減を図る一助とすることができました。

3 学校教育の充実

(1) 山元町立山下第二小学校の再建（移転復旧工事）に向けて

東日本大震災で被災し、山下小学校と併設を続けている山下第二小学校は、教育委員会が平成 25 年 3 月に策定した山元町小・中学校教育環境整備方針において、新山下駅周辺地区新市街地の一角に再建する考えを示しました。

これを受け、町として正式に山下第二小学校の再建を進めるため、平成 25 年第 4 回議会定例会において、用地取得・造成及び建築設計に向けた予算を提案したところ、学校の再建場所の選定理由等についての質問等多数いただきましたが、

最終的には可決いただき、山下第二小学校の再建が進められることになりました。

平成 26 年度には、再建に係る基本並びに実施設計を完了し、平成 27 年 6 月 16 日に建設工事に着手しました。(外構工事の着手は、平成 27 年 12 月 15 日)平成 28 年 3 月末日で工事の進捗率は、約 40%となっており、平成 28 年度第 2 学期からの再開に向け努力しているところです。

施工を担当する阿部建設(株)と(株)佐藤総合計画とは、平成 27 年 7 月 24 日から毎週金曜日に定例会議を設定し打合せなどを行ってきています。

また、山下第二小学校とも連携を図りながら、定期的に打合せ会を設け、各種業務の打合せを行ってきています。

建設場所は、防災集団移転促進事業として新たに整備した新山下駅周辺地区新市街地(つばめの杜)内で、敷地約 1 万 6500 m²で、現在の役場庁舎から東へ約 900 m の位置になります。

ここには、W 一部 S 造 2 階建て、延べ 3816.27 m²の校舎、RC 一部 W 造平屋建て、延べ 816.37 m²の屋内運動場、25m×6 コースのプール本体、RC 造平屋建て、延べ 90.59 m²のプール附属棟及び屋体倉庫を備えています。設計は(株)佐藤総合計画が担当しました。

校舎本体は、木造を基本に 4ヶ所が鉄骨構造の耐火構造とし、中庭を囲む口の字型を形成し、1 階には職員室、保健室、コンピューター室、音楽室等、2 階には普通教室とラーニングスペースを組み合わせたユニットルーム 4 室、特別支援教室、図工室、理科室等を設けています。

新校舎の最大の特徴は、太陽熱を吸収しやすいように屋根から取り込んだ暖気を、冬季の教室の暖房に活用する集熱システム「エコルーフ」を備えていることで、自然エネルギーを活用して快適な学習環境を確保することにあります。

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会の開催について

期 日	会 場	主 な 議 題 等
平成 28 年 3 月 22 日	第 3 仮庁舎 会議室 2	1 会長及び副会長の選出 2 本町におけるいじめ問題に対する体制等について 3 本町におけるいじめの状況について

これまで本町のいじめ問題等については、「山元町いじめ問題対策委員会」を要綱で設置(平成 19 年 4 月 1 日施行)し、いじめの対応や情報交換等について協議をしてきた経緯があります。

国(文部科学省)では、平成 25 年 9 月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、その後、宮城県においても「宮城県いじめ防止基本方針」が策定され、平成 26 年 4 月に宮城県いじめ問題対策連絡協議会等が設置され、いじめ防止の対策を推進する基本的な事項が規定されてきたところです。

本町においても、教育委員会等で検討を重ね、平成 27 年 10 月に開催した総合教育会議での協議調整を経て、平成 27 年度第 7 回教育委員会定例会で議決後、庁内での手続きを経た上で山元町と山元町教育委員会が連名で「山元町いじめ防止基本方針」を策定したものです。

その後、山元町いじめ問題対策連絡協議会等条例を平成 27 年 12 月議会で可決

されたことから第1回目の会議を開催したものです。

平成27年度における山元町のいじめの認知件数等は、表のとおりです。

(平成28年3月31日現在)

学 校 名	学 年						計	状 況	
	1	2	3	4	5	6		継続指導中	解 消
坂元小学校						1	1		1
山下小学校					1		1		1
山下第一小学校							0		
山下第二小学校			1		2		3	1	2
坂元中学校							0		
山下中学校		2	1				3		3
計	0	2	2	0	3	1	8	1	7

各小中学校で、いじめとして認知した件数は8件、うち5件が小学校、3件が中学校であり、いじめの態様としては、冷やかし、からかい、言葉での脅かしなどでありました。8件のうち7件は、保護者とも連携の上、学校の対応で既に解消していますが、1件は改善が進みつつも解消までには至らず、継続指導中ののであります。引き続き、学校の組織一丸となって取り組みを継続しており、さらに保護者の理解協力も得ながら、教育委員会としても最優先の課題として良い方向へ指導していかねばならない取組です。

(3) 小学校及び中学校における教育活動等の評価について

学校教育目標、今日的課題及び山元町教育基本方針から設定した次の各項目及びその評価の観点に対して、学校教育法及び同法施行規則により実施している学校評価から得られたデータ等を基に4段階評価を実施しました。

- ①学校教育目標・・・〈知〉〈徳〉〈体〉
- ②学力向上・・・基礎学力の定着、活用する力の伸長、主体的・体験的学習の展開
- ③心の教育・・・心のケアを含む心の教育、志教育の推進
- ④体力・生活習慣・・・体力向上に向けた取組、基本的生活習慣の育成
- ⑤防 災・・・地域防災の視点に立つ危機管理体制、大震災の経験を生かした防災教育
- ⑥いじめ不登校・・・いじめ防止対策、不登校対策
- ⑦地域連携・・・開かれた学校づくり、説明責任の状況
- ⑧資質向上・・・現職教育、校内研究など
- ⑨特色ある教育活動・・・各校独自の教育活動等

〈評価区分〉

A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である

A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:不十分である

—坂元小学校—

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
1 学校 教育 目標	〈知〉 ○進んで学習する子ども	<u> A B C D </u>	<ul style="list-style-type: none"> 「坂小学力向上プラン」の策定と活用 各種学力調査の実施と活用 学年の実態に応じた「本読みカード」「家庭学習カード」の作成と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 成果は見られるもののまだ全国平均を4ポイントほど下回っている。 □ プランの見直しを図るとともに、特に落ちている算数の活用力の向上をめざす。 ○ カードを活用することで、家庭と連携しながら家庭学習に取り組む習慣を高めることができた。
	〈徳〉 ○明るく思いやりのある子ども	<u> A B C D </u>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が「学校に来たくなる」学級づくり たてわり活動を通した豊かな人間関係作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9割以上の保護者、児童が「(子どもが)学校生活を楽しんでいる」と感じている。 ○ 上学年の児童が下学年のお世話をする優しさが身に付いている。
	〈体〉 ○根気強くがんばる子ども	<u> A B C D </u>	<ul style="list-style-type: none"> 業間運動の実施 学習カードの活用(水泳, 持久走, 縄跳び) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して運動に親しむ姿が見られる。 ○ 8割ほどの児童, 9割ほどの保護者が、「子どもは運動に親しんでいる」と考えている。
2 学力 向上	1 基礎学力の定着	<u> A B C D </u>	<ul style="list-style-type: none"> 「山元の子ども3つの約束」の活用 全校での「辞書引き学習」の継続 坂元小「家庭学習の手引き」の配付と活用 「スキルタイム」の朝活動への位置付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平日に1時間以上家庭学習に取り組む児童の割合が前年度より3ポイント増えた。 ○ 辞書引きにより、辞書を使い調べようとする意欲・言葉への興味関心が高まっている。 ○ 基礎的な計算力の向上が図られた。
	2 活用する力の伸長	<u> A B C D </u>	<ul style="list-style-type: none"> みやぎ単元問題ライブラリー応用問題(活用力を伸ばすための問題)の活用 学年毎の「寺子屋プリント」設置による個に応じた学習への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国の水準には達していないが、少しずつその差が縮小している。 ▲ 既習内容の活用意識が向上したが、継続性に課題が残った。 □ 今後も継続して、日常的な取り組みができるように環境整備を行っていく。
	3 主体的・体験的学習の展開	<u> A B C D </u>	<ul style="list-style-type: none"> 協働教育の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間を通して、体験から学ぶ機会を十分に設けることができた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
			<ul style="list-style-type: none"> 校外学習を積極的に取り入れた指導計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ H27年度は40回以上の校外学習の実績があり、町のバスも有効に活用できた。
3 心の教育	1 心のケアを含む 心の教育	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 「Q-Uアンケート」の実施と活用 「つながりタイム」を通じた心のケア スクールカウンセラーの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9割ほどの児童、保護者が「学校(教員)は子どものことをよく理解している」と感じている。 ▲ Q-Uアンケートの結果をふまえた対策を軌道に乗せられなかった。 □ 後半から始めた「つながりタイム」が軌道に乗ってきたので、継続し内容の充実を図る。
	2 志教育の推進	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等との関連を明確にした年間指導計画の整備 学校行事を中心に、志教育の3つの視点を位置付け、指導者の意識高揚を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一覧表をもとに、各教科と志教育との関連を意識しながら実践にあたることができた。 ▲ 「志シート」の積極的・効果的活用は今後の課題である。 □ 各教科との関連を図りながら、学年末に限らず、日常的に利用できるよう工夫する。
4 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 業間運動の実施 各種大会への参加呼びかけと練習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9割以上の児童、保護者が「学校は体力向上に努めている」と感じている。 ○ 郡の陸上大会で2種目で優勝し、県大会に出場した。県大会で1種目優勝。
	2 基本的な生活習慣の育成	A <u>ⓑ</u> C D	<ul style="list-style-type: none"> 坂元小「家族の日」の継続と啓発 月ごとの生活目標の設定と全校集会等での指導の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みやぎっ子ルルブル推進会議より表彰を受けた。親子がふれあう機会を意図的・計画的に設けていきたい。 ▲ テレビやゲームの時間が全国平均を上回っている。 □ 児童会活動の中でも取り組ませる。
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	<u>Ⓐ</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの改訂と再確認 学校安全3観点に分けた安全点検の月ごとの実施(防災倉庫を含む) 避難所としての校内受入体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の防災意識の高まりが、緊急時の初期対応の様子に表れている。 ○ 95%以上の保護者、児童が学校の防災・安全教育が適切であると感じている。
	2 大震災の経験を生かした防災教育	<u>Ⓐ</u> B C D	<ul style="list-style-type: none"> 防災読本「未来へのきずな」の活用 緊急配信メールを活用した一斉引き渡し訓練 毎月1度程度の「ショート訓練」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年で10時間以上活用できた。 ○ メール配信による保護者への連絡システムが軌道に乗り、いざというときの連絡がスムーズにできるようになった。
	1 いじめ防止対策		<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止対策委員会」の設置と開催 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 設置に向けて準備を進めたが、開催には至

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
6 いじめ不登校		<u>A B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートや個人面談の定期的実施と活用 職員会議や打合せでの情報交換 	<p>らなかった。</p> <p>□ H28年度は3回開催予定である。</p> <p>○ 児童との面談，職員間の連携により児童に安心感が生まれ，大きな問題になる前に対応することができている。</p>
	2 不登校対策	<u>A B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議の開催を通じた早期対応 スクールカウンセラー，教育相談員との連携 	<p>○ 担任一人が抱え込まない体制作りができ，多用な対応や連携ができた。</p> <p>○ 週1回の訪問であるが，親身に相談に乗ってもらえている。</p>
7 地域連携	1 開かれた学校づくり	<u>A B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> 「学校ガイドブック」による学校経営方針や学校評価の公表 年4回の授業参観とフリー参観，祖父母参観の実施 	<p>○ 9割以上の児童，保護者が「子どもや保護者からの相談に気軽に応じている」と感じている。</p> <p>○ 授業参観や学級懇談会，学年行事にはほとんどの家庭が参加している。</p>
	2 説明責任の状況	<u>A B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の学校評議委員会の開催 学校だより，学年だよりの定期的発行 ホームページによる情報発信 学校評価アンケートの実施と結果公表 	<p>○ ほぼ全ての保護者が「学校の様子や子どもの様子が分かりやすい」と回答している。</p> <p>○ ホームページが週に複数回更新され，保護者からも好評である。</p>
8 資質向上	1 現職教育	<u>A B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> 宮城教育大学と連携した「児童理解研修」の実施 専門的な分野の講師を招いての研修 	<p>○ 2回実施することができた。</p> <p>□ 継続しながら内容の充実を図る。</p> <p>○ 心理教育，教科指導，救急救命講習など，充実した研修ができた。</p>
	2 校内研究	<u>A B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> 分かる授業作りと学力の向上を目指した計画的な研修の実施 相手にわかりやすく伝えるための言語活動の実践 	<p>○ 95%以上の児童が「授業が分かりやすい」と回答している。</p> <p>○ 学力向上を目指して，職員間で共通理解しながら手立てを講じ，実践することができた。</p>
9 特色ある教育活動	1 地域の人材を生かした教育活動	<u>A B C D</u>	<ul style="list-style-type: none"> 「読み聞かせボランティア」の活用 総合的な学習での外部講師活用 坂元小「見守り隊」と連携した安全教育 	<p>○ 地域の方々の専門性を生かした学習活動を展開することができた。</p> <p>▲ 見守り隊の高齢化と人材獲得が課題であり，隊員と学校との連絡体制も整備が必要である。</p> <p>□ 定例会を開催するとともに，各地区の代表者を決め，若い世代への声かけを依頼する。</p>
	2 地域素材を生かした教育活動		<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間における地域の学習 	<p>○ 地域を知り，大切にしようとする心情を養うこ</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
		Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品「いちご」「りんご」の学習 ・坂元川の川探検 ・教科や道徳の学習における地域素材の活用 	<p>とができた。</p> <p>▲ 地域教材の固定化が見られる。</p> <p>□ 蓑首城跡, 合戦原遺跡, 大條ゆかりの茶室等の歴史教材, 坂元小周辺, 深山少年の森, 亘理地壘山地等の自然教材開発に努める。</p>
3	地域と連携した防災・安全教育	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会主体の町総合防災訓練と防災研修の実施 ・消防署, 警察署と連携した各種訓練の実施 	<p>○ ほぼすべての保護者が安全確保における地域との連携が適切であると感じている。</p> <p>○ 自分の地区の一次避難所の把握ができ, 「自分の地区も自分たちで守る」意識が作られた。</p> <p>○ ほとんどの児童, 8割近い保護者が「自分の命は自分で守る」意識が育っていると感じている。</p>

—山下小学校—

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策(箇条書き)	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
1 学校 教育 目標	〈知〉 しっかり勉強する子ども	A Ⓑ C D	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導形態や指導法の工夫 2 スキル学習や家庭学習の励行 	<p>○ 校内研究への取組の中で, 小集団での学習(グループ学習)のさせ方を探り, 学び合いの場の日常化を図った。</p> <p>▲ 全学年, 全学級で家庭学習への取組を声掛けしてきて, 改善が見られたが, 学年による差や個人差がまだ見られる。(取り組んでいる児童68%)</p> <p>□ 教頭(6年音楽), 教務(6年算数)等, 学級への授業支援を行い, 児童の学力向上に努めた。</p>
	〈徳〉 やりとおす子ども まごころのある子ども	A Ⓑ C D	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童によるあいさつ運動の実施 2 縦割り活動を通した心の教育 	<p>○ 毎週集会時, 児童会の自主的な取組により, 挨拶運動を行い, 挨拶の励行に努めた。</p> <p>○ 年間7回, 定例の縦割り活動を設定し, 上級生が下級生を思いやり, 友だち同士助け合う活動の定着を図った。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
				<p>▲ 校外では、不審者対応の指導の影響もあり、挨拶を控える児童が多いようで、挨拶をされたら「返す挨拶」について指導してきた。</p> <p>□ 学習活動内で、地域の方に講師や見守りとして協力を依頼し、交流の機会をもった。また、サポート委員会等、地域の方との交流の機会を生かし、地域への発信についても努めた。</p>
	〈体〉 たくましい子ども	A (B) C D	<p>1 体育の授業・体育的行事・外遊び等での運動量の確保</p> <p>2 体力向上カードの活用</p> <p>3 年間を通した縄跳びの奨励</p>	<p>○ 約1か月間、各自目標をもたせ校内持久走大会へ向けて集中的に取り組ませた。</p> <p>○ 積極的に外遊びに取り組む児童が増加してきた。</p> <p>▲ 運動を日常化するため、体力向上カードをさらに活用し、働きかけていく。</p> <p>□ 業間時間に縦割りグループ毎、外遊びを計画させ、日常的に取り組ませた。また、Web縄跳び大会(8の字跳び、短縄跳び)について周知し、一部の学級で参加することができた。次年度の活用に向けて縄跳びジャンピングボードの部材を購入した。</p>
2 学 力 向 上	1基礎学力の定着	A (B) C D	<p>1 スキル学習の定期的な実施</p> <p>2 家庭学習の推奨</p>	<p>○ 週3回、朝の活動として、スキル学習の時間を設定し、基礎・基本の定着に努めた。</p> <p>▲ 家庭での学習時間をさらに増やすため、家庭への啓発を続けている。</p> <p>□ スキル学習について、学年を越えた内容に取り組ませるためにさらなる工夫をしていく。</p>
	2活用する力の伸長	A (B) C D	<p>1 総合的な時間の指導を通した活用力の育成</p> <p>2 ノート指導を通した、既習事項を活用する能力の育成</p> <p>3 校内研究の充実・発展</p>	<p>○ 総合的な学習の時間の学習の中で、表現力や発信能力等の活用力の向上を図る。また、年間8回の研究授業と検討会を通し、ノートを活用した既習事項の想起のさせ方等、指導力の向上を図った。</p> <p>▲ その中で、丁寧で活用しやすいノート作成力について、さらに高めていく必要が感じられ</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
				<p>た。</p> <p>□ 個に応じた指導を充実させるため、児童の実態に即した指導計画を常に改善してきた。また、研修・研究を充実させることにより、指導改善と指導力の向上を常に心がけた。</p>
	3主体的・体験的学習の展開	A <u>ⓑ</u> C D	<p>1 小集団学習を活用した主体的な学習</p> <p>2 地域の環境を生かした体験学習の実施</p>	<p>○ 授業の中で、小集団学習を取り入れ、発言意欲の向上を図った。また、体験を通じた学習を多く取り入れ、児童が意欲的に学習に取り組めるよう工夫した。</p> <p>▲ その中で、体験学習の時間の確保が難しく、さらなる工夫が必要である。</p> <p>□ アクティブラーニングを意識した授業内容の工夫改善により、主体的に学ぶ児童を育成できるよう工夫する。また、生涯学習課と連携し、地域人材の活用を図るよう努めた。</p>
3 心 の 教 育	1心のケアを含む心の教育	A <u>ⓑ</u> C D	<p>1 スクールカウンセラーの活用</p> <p>2 必要に応じたケース会議の開催</p>	<p>○ 年4～5回ケース会議を開催し、適切で迅速な対応を図った。さらに、スクールカウンセラーを活用し、児童の精神面のケアの充実に努めた。</p> <p>▲ 保護者へ、スクールカウンセラーの来校日を周知したが、実際の活用に至るケースは少なかった。</p> <p>□ カウンセラーが作成した便りを、カウンセリングの意味の周知のために配付した。(年3回)</p>
	2志教育の推進	A <u>ⓑ</u> C D	<p>1 指導計画の点検と加筆</p> <p>2 実践事例の蓄積と紹介</p>	<p>○ 年度の終わりに、指導計画の見直しを図り、さらなる充実を図った。また、指導者の意識を高めるため、研修を行った。</p> <p>▲ 地域に即した人材について取り扱った実践とその資料を集積していく必要がある。</p> <p>□ より使いやすい「未来への架け橋」副読本のDVDやYouTubeについて周知し、活用を促進する。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
4 体力・生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A (B) C D	1 体育・外遊び等での運動量の確保 2 体力向上カードの活用	○ 外遊びの励行により、外で活動する児童が増加した。また、体力向上カードを通し、意欲喚起を図ったため活動意欲の向上が見られた。 ▲ 体力向上について、体力面と意識面の数値的なデータをとり、把握していく必要がある。 □ みやぎっ子！元気アップエクササイズを周知し、活用促進したことで、運動する場所の確保が難しい中でも、運動量を増やすことができた。
	基本的な生活習慣の育成	A (B) C D	1 児童の実態に応じた生活目標の設定 2 各学年の実態に応じた指導計画の策定と指導の実施 3 全校児童に対する定期的な指導の実施	○ 毎月の朝会等で、生活目標を提示し指導した。 ▲ 月ごとの目標に加え、職員間で常時情報交換し、必要な指導項目について確認し、指導の強化を図る必要がある。 □ 生活朝会を新設し、より充実した指導ができるよう工夫した。
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理	A (B) C D	1 山下二小と連携した危機管理マニュアルの改善 2 災害時を想定した訓練の実施	○ 防災に向けたマニュアルを、山二小と一緒に整備し、合同会議を開き、共通理解の徹底を図った。 ▲ 山二小が移転した後、教室配置等の変更に伴い、マニュアルについても見直さなければならない。また、集団下校訓練や引き渡し訓練等、単独の場合についての方法も確認すべきである。 □ 地域と連携した体制を整備し、合同防災訓練へ参加した。また、津波想定訓練を計画・実施し、ふじ幼稚園と共同実施した。
	2 大震災の経験を生かした防災教育	A (B) C D	1 山下二小との共同防災訓練の実施 2 安全集会等を通じた防災意欲の育成	○ 年3回、山二小と共同の防災訓練を実施し、共通理解の徹底を図った。 ▲ 年間を通じた防災教育の計画を作成し、体系的に指導していく必要がある。 □ 防災主任が主導し、総合的な学習の時間の

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
6 いじめ 不登校	1いじめ防止対策	Ⓐ B C D	1 いじめ実態調査の毎月の実施 2 実態調査を通じた早期の発見と対応 3 いじめに関する情報の共有化 4 いじめ問題対策委員会の発足	○ アンケート調査や教員への聞き取り等定期的な調査により実態把握に努めた。また、職員間で情報を共有することにより、足並みをそろえ取り組むことができた。 ▲ 調査結果を蓄積し、児童の実態をより深く把握する。 □ 実態調査の結果をいじめ問題対策委員会での情報の一部として活用した。
	2不登校対策	A Ⓑ C D	1 児童実態の情報の共有 2 ケース会議の開催を通じた早期対応	○ 打合せや職員会議等、機会をとらえ情報を共有することで早期に対応することができた。 ▲ さらに迅速に対応できるよう工夫する必要がある。 □ 職員会議、打合せ等での共通理解とともに対応についてもミニケース会議を実施する等迅速な対応に心がける。
7 地域 連携	1開かれた学校づくり	A Ⓑ C D	1 授業参観やみやまフェスティバルなど学校行事等の地区への公開 2 学校だよりの地区への回覧、及びホームページやメールによる情報の提供	○ 学校、学年便りやメール配信等で、迅速な情報提供に努めた。 ▲ ホームページの更新の頻度を上げ、さらに情報発信に努める必要がある。 □ メール配信登録率を上げるため、年度始めだけではなく、途中にも呼びかけを行った。
	2説明責任の状況	A Ⓑ C D	1 学校経営方針や学校評価の公表 2 サポート委員会での学校経営の状況の説明	○ 学校の行事や活動等の情報を公開することにより、地域からの理解が深まり、さらなる支援を得ることができた。 ▲ さらなる情報の発信が必要である。 □ 定例サポート委員会では、さらに詳しい説明を行った。
	1現職教育	Ⓐ B C D	1 校内共同研究の推進 2 実技研修の実施	○ 年間を通じ共同研究に取り組み、職員の資質の向上に努めた。また、模擬授業による事前検討会やワークショップ形式の事後検討

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
8 資質 向上				<p>会を取り入れ、職員の意欲の向上を図った。</p> <p>▲ 事前検討や準備の時間を確保するのが難しかった。</p> <p>□ 模擬授業の導入により、事前検討会の具体化と合理化を図る。また、教職員の希望や社会の要請に応じた実技研修を計画する。</p>
	2外部研修	A <u>ⓑ</u> C D	<p>1 公開研究会等への積極的な参加</p> <p>2 研修内容を共有化するための伝講会の実施</p>	<p>○ 外部へ研修に出かけることで教師の資質の向上に努めた。さらに、伝講会を実施し、情報の共有化を図った。</p> <p>▲ 研修に行く時期が集中しないよう、参加する時期の調整が必要だった。</p> <p>□ 研究会への参加について、年間を通してバランス良く計画し、長期休暇時以外に、職員会議内でも伝講する等工夫した。</p>
9 特色 ある 教育 活動	1指導形態の工夫	A <u>ⓑ</u> C D	<p>1 教頭・教務による授業の実施</p> <p>2 小集団学習の活用</p>	<p>○ 教頭・教務の授業支援によって、担任の事前準備の充実が図られ、授業の質の向上につながった。TTにより個別対応を手厚くすることができた。</p> <p>▲ TTと少人数指導を、学習内容に応じ、バランス良く計画していく必要がある。</p> <p>□ 年間の指導計画や単元を見通して、計画的に少人数指導、TT等指導形態・指導方法を工夫する。</p>
	2縦割り活動	<u>Ⓐ</u> B C D	<p>1 年間を通した縦割りグループによる異学年児童との活動</p> <p>2 活動を通した高学年児童のリーダーシップの育成</p>	<p>○ 学級を越えた活動を取り入れることで、児童の活動に対する意欲の向上が図られた。また、同学年・異学年問わず、児童同士の交流による思いやりの心の成長が見られた。</p> <p>▲ 活動の事前準備の時間の確保が難しかった。</p> <p>□ 授業時間内の「みやまタイム」(児童会活動)の計画のほか、業間時間の「サンタイム」も事前に計画する。</p>
	3地域素材や人材の活用		1 プラットフォーム事業を通した学習支援ボラ	○ 年5～8回の学習支援ボランティアの補助に

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
		<p style="text-align: center;">(A) B C D</p>	ンティアの活用 2 総合的な学習の時間での素材の開発	より、安全に校外学習等を行うことができた。 ▲ 地域の活用すべき人材や素材をさらに発掘、開発するとよい。 □ 地域協働の役割を担う生涯学習課と定期的に情報交換を行い、さらに連携を深めていく。

—山下第一小学校—

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
1 学 校 教 育 目 標	〈知〉 <input type="radio"/> 自ら課題を発見し、多様な見方・考え方で追求する子ども <input type="radio"/> 自己の思いや考えを自分なりに表現できる子ども	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> 思考力、判断力、表現力を育む言語活動を充実させる。 防災・復興教育の充実を図る。 	<input type="radio"/> 国語科で単元を貫く言語活動を取り入れることで主体的に課題に取り組み、自分の考えをまとめて発表することができた。 ▲ 人前で明確に自分の考えを発表できない児童がいた。 <input type="checkbox"/> 考えたことを文章に表し、それをもとに自信をもって発表できるよう指導した。 <input type="radio"/> 関係機関の協力を得て、多様な体験学習に取り組むことができた。
	〈徳〉 <input type="radio"/> 思いやりの心を持ち、お互いに助け合う子ども <input type="radio"/> 進んで働き、自分や友達を大切にしている子ども	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活態度(聴く、話す、挨拶)の育成を図る。 縦割りによる異学年との交流活動を充実させる。 	<input type="radio"/> 学校内外において進んで挨拶をすることができた。 <input type="radio"/> 高学年の意識を高め縦割り活動をリードすることができた。 ▲ 人間関係が固定化している。 <input type="checkbox"/> いじめアンケートやQUによる実態把握を行い、よりよい人間関係づくり、学級づくりに取り組んだ。
	〈体〉 <input type="radio"/> 明るく健康で、進んで心身を鍛える子ども <input type="radio"/> めあてに向かって粘り強く取り	<p style="text-align: center;">A (B) C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育の充実(早寝、早起き、朝ごはん、歯みがき、食育)を図る 各種運動カードの活用と指導法の工夫・改善を図る。 	<input type="radio"/> 毎週月曜日に自分の生活について振り返りをするので9割の児童が意識するようになった。 <input type="radio"/> 運動カードを活用することで、めあてをもって継続して取り組む児童が増えた。 <input type="radio"/> 全校児童の取組状況を一覧にして掲示する

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
	組む子ども		<ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間の外遊びを奨励する。 	<p>ことで、意識を高めるとともに互いに励まし合う姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 異学年で遊ぶ姿が多く見られた。 ▲ 天気が良くても屋外で遊ばない児童がいた。 □ 外遊びの大切さを伝え、継続的に声がけした。
2 学 力 向 上	1 基礎学力の定着	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学力向上に向けた5つの提言」を意識した指導を行う。 ・ 国語科を中心に言語活動を大切にしている指導を行う。 ・ 個に応じた指導を図るため、3年生以上の学年にTTを取り入れる。 ・ 朝の学習活動の充実を測る。(算数, 作文, 読書等) ・ 一部教科担任制を実施する。 ・ 英語活動を1年生から実施する。 ・ 月2回のボランティアによる読み聞かせを実施する。 ・ 家庭学習の手引きを作成・配付し, 家庭で学習を充実させる ・ 長期休業中の学習活動「さくらタイム」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業のねらいを明確にしたり, 書く活動を大切にすることで学習内容の理解が進んだ。 ○ 文章を目的に応じて読み取り, 自分の表現に生かすことができた。 ▲ 学習内容の理解・定着に個人差が見られた。 □ 授業以外の時間も活用し, 個別指導にあたった。 □ TTとして校長・教頭・教務主任・支援員が各学年の指導に入り, 児童のつまずきに対応した。 ○ 反復学習や書く活動を多く取り入れることで, 学習内容の理解・定着を進めることができた。 ○ 書写を専科が担当することで, 児童は意識を高め, 意欲的に取り組んだ。 ○ 低学年から簡単な英語活動に取り組むことで外国語やALTに親しむことができた。 ○ 読み聞かせなどで読書への意欲を高め, 目標の50冊読破のため集中して本を読むことができた。(50冊以上:46名, 100冊以上:12名, 最高は184冊でした) ○ 家庭学習や自主勉強の仕方が分かり, 8割程度の児童が主体的に取り組めるようになった。 ○ 夏休みや冬休みに希望する児童に学習支援を行うことできめ細かに指導できた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
	2 活用する力の伸長	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用して解く問題等に意識的に取り組ませる。 既習事項を想起させられるような環境作りを行う。 教科や総合的な学習の時間等で発表の機会を設定する。 標準学力調査を実施し、児童の学力の推移を把握する。(4月に2～6年生が実施) 	<p>▲ 問題の解き方が少しずつ分かるようになったが、十分に活用できない児童がいる。</p> <p>□ 基礎学力の定着を図り、活用力を身に付けさせられるよう継続的に指導してきた。</p> <p>○ 各教科等で学習したことを生かして調べたり、発表の準備をしたりすることができた。</p> <p>▲ 標準学力調査結果では、全国平均正答率との差がマイナス10点以上のもの:平成26年度の国語では4/20領域、算数では8/20領域、平成27年度の国語では5/20領域、プラス差は1/20領域、算数では7/20領域、プラス差は1/20領域であった。</p> <p>□ 国語では、読む力を高めるため、多様な文章を読ませたり、読書を勧めたりしてきた。算数では「数と計算」・「量と測定」の領域を繰り返し復習させ、定着させられるよう指導してきた。</p>
	3 主体的・体験的学習の展開	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 各教科や総合的な学習の時間等で、課題解決型学習や体験的学習を意識して取り組ませる。 	<p>○ 意欲的に取り組めるような課題を設定したり、校外学習で体験活動を行ったりすることで、児童の学習に対する意識が高まった。ペアやグループ学習の中で主体的に学び合う姿も見られるようになった。</p>
3 心 の 教 育	1 心のケアを含む 心の教育	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育重点目標を明確にし、発達段階に応じて心の教育に当たる。 縦割り活動(業間遊び、清掃、カレンダー作り、遠足)で異学年の関わりを充実させる。 カウンセラーや総合教育センター等、関係機関との連携を密にする。 	<p>○ 挨拶や言葉遣いなど礼儀が身に付いた。</p> <p>○ 善悪の判断を正しくできる児童が多かった。</p> <p>○ 多様な人と関わることで、相手に応じた言動・対応を考えることができるようになった。</p> <p>○ 配慮が必要な児童について家庭・学校・関係機関で情報を共有して対応することができた。</p>
	2 志教育の推進	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 志教育全体計画の重点指導事項を踏まえ、指導に取り組む。 	<p>○ 各教育活動における取組の観点をもとに、志教育を意識した活動を行うことができた。</p>
	1 体力向上に向けた取組		<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を分析し、落ちている力を高められるような運動を取り入れる。 	<p>▲ シャトルラン、50M走、ソフトボール投げで全国平均を下回る学年が多かった。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
4 体力・生活習慣		A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 運動カード(水泳, 持久走, 縄跳び等)を活用し、意欲的・継続的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 体力テストの結果を共通理解し、苦手な運動を体育の授業で意識して取り入れた。 ○ 各種の運動カードを活用することで主体的に取り組む児童が多かった。
	2 基本的生活習慣の育成	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 早寝, 早起き, 朝ご飯等について, 継続的に指導する。 時間を意識させ, 一日3回だけのチャイムで行動できるようにさせる。(ノーチャイム) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童への意識づけや家庭への啓発活動を続けることで, 身に付いてきている。 ▲ 特定の児童であるが, 生活習慣の乱れや忘れ物が見られた。 □ 児童とともに家庭への働きかけを強化した。 ○ 時計を見ながら意識して行動することができた。
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 区長や民生児童委員, 関係機関の方との連携を図る。 避難所開設訓練を行い, 非常時に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合い及び顔合わせの場を設けることで情報交換や地域の現状について再確認することができた。 ○ 毎年取り組むことで, 教職員の意識を高め, 動きを確認することができた。 ▲ 町防災訓練でのさらなる連携が必要である。 □ 学校の役割を確認し, 緊急時に対応できるよう訓練に取り組んだ。
	2 大震災の経験を生かした防災教育	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> H24~H26校内研究で取り組んだ防災教育の継続と改善を図る。 マニュアルを定着させるため不審者対応避難訓練や引き取り訓練等を実施する。 安全のために毎月児童の防犯ブザー点検をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「避難確認カード」で災害に遭遇した時の具体的な動きを児童・家庭と共有しながら把握することは有効であった。 ○ 関係機関と連携し, 各種訓練を実施することができた。 ○ 防犯ブザー点検をすることにより緊急時への意識を高めることができた。 ▲ 電池切れや破損で持っていない児童が出てきた。 □ 児童や家庭に声がけして意識を高め, 緊急時に使えるよう準備した。
	1 いじめ防止対策		<ul style="list-style-type: none"> 子どもを語る会(生徒指導会議)を毎月実施して, 児童の実態を全職員で把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員間で情報を共有することで, 一貫した対応をすることができた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
6 いじめ 不登校		Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> いじめ調査やQ-Uテストを実施し、児童の状況を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査結果を基に、望ましい人間関係づくりに取り組むことができた。 ○ 問題がある児童には、組織的に対応することができた。
	2 不登校対策	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい学校生活を送れるよう、学級経営を工夫する。 分かる授業づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年の実態に応じ、学習指導や生活指導に努力した。不登校児童はいなかった。 ○ 全職員で、全校児童を見守ることができた。 ○ 児童の実態把握と教材研究を行い、分かる授業作りに取り組んでいる。 ○ 実物投影機やタブレットを授業で取り入れ、児童の理解を図る手立てとしている。
7 地域 連携	1 開かれた学校づくり	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りの地区回覧やホームページの公開を行う。 保護者アンケートを実施する。 保護者の学習参観や行事参加を促す。 区長や民生児童委員等との連携を密にする。 放課後児童クラブ、スポーツ少年団と連携する。 中学校、幼稚園、保育所と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校からの情報発信を適宜行うことで、学校の状況を理解していただくことができた。 ○ 保護者アンケートを実施し、願いや思い・要望を把握することができた。 ○ 多くの保護者の方々に協力していただいた。 ○ 情報共有の場をもつことで、学校と地域の相互の理解が進んだ。 ○ 活動室や体育館を必要に応じ提供した。 ○ 中学校での体験授業や小学校での幼児学級を行うことで、縦の連携を強めることができた。
	2 説明責任の状況	A Ⓑ C D	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会を開催する。 学校評価を公表し、学校への理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営の成果と課題について理解していただき、評議員の考えを聞くことができた。 ○ 学校評価と児童アンケート等を取りまとめて公表することができた。
8 資質 向上	1 現職教育	A Ⓑ C D	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を国語科にし、単元を貫く言語活動について授業実践を積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全員が研究授業を行い、事後検討を行うことで、ねらいに合う言語活動の在り方について学ぶことができた。 ▲ 国語科でのさらなる授業改善が必要である。 □ 授業改善の意識を高め、研修と実践を積み重ねた。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
9 特色ある教育活動	1 安全で美しい環境作り	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招いての指導を頂く。 掲示教育や農園での勤労体験, 季節感あふれる花壇経営をする。 緊急時に即応できるように避難所設置に向けた整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招くことで合唱指導等, 専門的な指導方法を研修することができた。 ボランティアの支援により季節にあった掲示や農園経営, 環境美化, 花壇経営を充実させることができた。 避難所設置用備品の管理を定期的に行い, 活用できるように準備することができた。
	2 PTAや地域との連携	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> PTAとの連携を深め, 活動の活性化を図る。 緊急メールの全戸加入に向けての働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル, バザー, 美化活動等を行い多くの保護者から協力を得られた。 ▲ P会員数の減少により, 活動における保護者の負担感が高まっている。 □ 役員定数の見直しや活動の在り方を工夫してきた。 ○ 全戸加入でメールを有効活用できた。

—山下第二小学校—

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
1 学校教育目標	〈知〉 まなび合う子ども	A (B) C D	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を目指す「楽しく分かる授業」の創造 思考力, 判断力, 表現力の向上につながる学習活動の工夫 TT指導の在り方と効果的な活用 「話す活動」と「書く活動」の計画的な推進 家庭学習の推進「家庭学習のすすめ」配布 学ぶ意欲を刺激する言語環境, 掲示物の整備充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のめあてを提示し, 振り返りをさせることで, 個々の理解度を把握し, 個に応じた学習指導を進めることができた。 ○ 「話す活動」「書く活動」を設定することで, 自分の考えを持ち, 友達と意見を交流し, 主体的に学習する児童が増えた。 ▲ 家庭学習に取り組む児童は増えてきたが, 学習内容に工夫が必要である。(児童…家庭学習に取り組んでいる 70% H27.12) □ 「家庭学習のすすめ方」について, 改訂版を4月のPTA総会で保護者に紹介し, 協力をお願いした。
	〈徳〉 にこやかな子ども		<ul style="list-style-type: none"> あいさつの励行 日々の道徳教育の実践と授業参観での公開 	<ul style="list-style-type: none"> ○ たてわり活動では, リーダーを中心としたグループ活動が設定されており, 下学年を思

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
		A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢集団の良さを生かしたたてわり活動の推進 地元伝統行事や伝統芸能への積極的な関わり 積極的な生徒指導推進 教育相談の充実(スクールカウンセラーや外部機関との連携) 	<p>いやる行動がたくさん見られた。</p> <p>○ 伝承遊びや地元につながる民謡を覚えるなど、地域人材の活用をすることで、故郷を愛するきっかけをつくることができた。</p> <p>▲ あいさつや言葉遣い、決まりを守るなどの項目は教職員と保護者の評価に開きが見られる。</p> <p>[よい・おおむねよいとした回答率] (言葉遣いについて 保護者 70% 教員 25%) (決まりについて 保護者 70% 教員 45% H27.12調査)</p> <p>□ 結果について保護者に公表するとともにサポート委員会でも話題にし、考察をした上で保護者を啓発していく。</p>
	〈体〉 やり通す子ども	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 「はやね・はやおき・朝ごはん」運動の推進 食を大切に健康教育の推進 根気強く、学習、生活に取り組むために保護者と連携した基本的な生活習慣づくりを行う 体力、運動能力の向上をめざした取組 個に応じた目標を設定した教科体育 	<p>○ スポーツテストの結果を生かし、俊敏性や柔軟性を必要とする運動能力の改善と向上を図ることができた。</p> <p>○ 食育の大切さが児童にも分かるように、栄養士さんを講師とした授業を位置づけた授業を行っている。</p> <p>▲ 基本的な生活習慣の結果。(28.3調査) (平日22時以降に寝る児童 50.9% 朝食をあまり食べない6%)</p> <p>□ PTA総会やおたより等で現状をお知らせし、啓発していく。</p>
2 学力 向上	1 基礎学力の定着	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 業前時間における計算、漢字練習への取り組み(各学年 単元テスト 国語 算数 平均80点以上) 「山ニスタンダード(学習規律)」の徹底 TT指導(算数、理科、体育)による授業の充実 週末プリントの実施 算数の授業の進め方の全校統一 	<p>○ 学習習慣の定着が学力向上につながると考え、「山ニスタンダード」を改善し、保護者にもお知らせしている。</p> <p>○ 加配を生かしたTT指導を実施し、複数体制で授業を行っており、個に応じた細かい指導を行っている。</p> <p>○ 毎週末学習プリントを課題とし継続して取り</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
				<p>組んでいることで、漢字の書き取りの力や計算力が伸びている。</p> <p>▲ 家庭学習など学習習慣が十分に身についていない児童がいるので、さらに家庭と協力していく必要がある。</p> <p>□ 職員研修を行い、指導方法の確認、学力の課題等を克服できるようにする。</p>
2	活用する力の伸長	<p style="text-align: center;">A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業の指導過程の工夫と発展問題等への挑戦 「金曜プリント(家庭学習)」での国語読解問題への取り組みと採点、コメント 児童が考えを持ち、友達と交流し合う場面を設定した授業の展開 	<p>○ 週末プリント(金曜プリント)の継続的課題により、国語の読む力、書く力が育ってきている。</p> <p>▲ 学力状況調査では、活用する力が県および全国平均より低いので、活用する力を育てる指導が必要である。</p> <p>(正答率県平均との比較 国語-3. 6P 算数-11. 2P)</p> <p>□ 国語科を中心に、各教科において課題に対する自分の考えをもち、その根拠を話すことができるようにする。授業の中に、考えを交流し合う場面をつくり出す。</p>
3	主体的・体験的学習の展開	<p style="text-align: center;">A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各教科における体験的学習の重視 宿泊学習における自然体験的学習の充実 地域の伝統を取り入れた学習 総合的な学習の時間を活用した「山二小輪太鼓」へのとりくみ 	<p>○ 基礎的な知識を得るだけではなく、自動車工場や地元の農家の見学を通して体験的に学習し、興味を高めることができた。</p> <p>○ 地域の民謡を習う学習には非常に意欲的に取り組み、故郷を愛する心が育っている。</p> <p>○ 地域復興に向けての太鼓の演奏に意欲的で、地域、保護者からも継続して欲しいとの声がある。</p>
3 心の教育	1 心のケアを含む 心の教育	<p style="text-align: center;">A B C D</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加配教員による複数体制による学級経営とTT授業の実施 スクールカウンセラーによる全校カウンセリングの実施 必要に応じた教育相談(外部機関とのつながり) 	<p>○ 学校生活の様子が心配される児童には、複数体制によ素早く対応することができた。</p> <p>○ 全員カウンセリングで得た情報により、個に寄り添った支援を行うことができた。</p> <p>▲ 新市街地はこれまでの環境と違い、大きな環境の変化に学校も含め地域全体が対応して</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
				いく必要がある。 □ PTAと協力し、保護者の協力を得ながら児童の安全を守り、環境の変化に迅速に対応する体制と組織を整える。
	2 志教育の推進	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのかかわりを大切にして将来の夢や希望に向かっていこうとする児童の育成 外部人材の積極的な活用 ジュニアリーダーの活用 プロスポーツ選手の招待 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の伝統芸能である「笠浜甚句、花笠音頭」などを地元講師を依頼して習得し、学習発表会で披露し、地元を愛する心を育てることができた。 ○ 外部団体の講師を積極的に依頼し、将来への夢の実現へ向けて見通しをもつことができた。 ▲ 指導計画に朱書きを入れるなど、見直しをする必要がある。 □ 今年度の反省を記録し、年間指導計画の見直しと改善を図る。
4 体力・ 生活習慣	1 体力向上に向けた取組	A Ⓑ C D	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上委員会の設置 スポーツテストの実施・結果の考察と対応 全校で統一した水泳カードを使用し泳力の向上に取り組む 体を動かす機会が減る冬季に向けてなわとび運動の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動が好きな児童が多く、外遊びやボール運動をしている児童が多く見られた。 ▲ ボール運動など特定の運動をする子どもは多いが、運動領域全般には広がりが見られない。 □ 外遊びの推奨、教科体育での幅広い運動領域の指導を行い、スポーツテストで数値の低かった運動を補う。(H27 全国平均値以下 ソフトボール投げ 立ち幅跳び)
	2 基本的な生活習慣の育成	A Ⓑ C D	<ul style="list-style-type: none"> 「はやね・はやおき・あさごはんがんばりカード」を使用した児童と保護者への啓発 ゲームや携帯電話の使用について考える E-ネット安心講座の開設 	<ul style="list-style-type: none"> ○ PTA総会で保護者にカードを使用した取組に協力を依頼し、生活習慣の育成に取り組んだ。 ▲ 復興に伴い住環境が変わり、生活習慣の乱れが感じられる。 □ 生活習慣の多くは、家庭で養われるものである。学校として、子どもたちの実態や改善すべき点について情報を保護者に伝え、Eネッ

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策 ト講座のようにともに学ぶ場を設ける。
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づいて、防災学習と訓練を実施し、町総合防災訓練にも積極的に参加する。 併設校の山下小学校とは勿論のこと、近隣のふじ幼稚園とも連携した訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一斉メール配信は効果的に活用できている。(登録保護者100%) ▲年間指導計画の実践を進めていくことが必要である。 □今後、新校舎を避難場所とした、地域防災の避難訓練が必要となってくる。新市街地のつばめの杜地区と山二小学区(花釜、牛橋、新浜)との連携やコミュニケーションづくりが急務である。
	2 大震災の経験を生かした防災教育	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 緊急配信メールを活用した一斉引き渡し訓練 防災読本「未来へのきずな」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急メールを活用し、緊急時の引き渡し訓練を滞りなく実施することができた。 ▲津波の経験を想起させないような防災教育の内容を考える必要がある。 □防災読本を活用した防災教育の実践を行う。県発行「指導の手引」の活用をする。
6 いじめ不登校	1 いじめ防止対策	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な生徒指導の実践 「生活アンケート」の実施と共通理解 「Q-Uテスト」の実施と考察 毎月の職員会議での各学年の情報交換 問題行動が起きそうな時、起きた時は、ケース会議を開き、担任を含め全校での対応を決め、全員で共通行動をとるようにする。 危機管理の「さしすせそ」の徹底。 スクールカウンセラーによる全校カウンセリングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートの内容から、より早く情報を集め、対処している。(4月より いじめ解消 1件 認知 1件…現在対応中) ○スクールカウンセラーは担任では把握しにくい児童の交友関係や悩みを教えてくれるので、学級経営、生徒指導に役立てることができた。 ▲いじめを防止に関する研修会を実施するなど、いじめを生まない学校、学級づくりを心掛けるようにする。 □外部講師による研修会を実施し、教職員の意識と指導力を高める。
	2 不登校対策	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 登校しぶりが見られる場合の対応体制の整備 3日以上事由が明確でない欠席が続く場合は、直ちに家庭訪問、場合によっては、ケース会議を開催し、対応を図る。 全校カウンセリングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○気になる児童とその保護者とは良好な関係が築けており、協力し合いながら対応することができている。(不登校0件) ▲不登校を生まない学校、学級づくりを行うようにする。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
7 地域連携	1 開かれた学校づくり	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> フリー参観を設定し、授業後に保護者や地域の方々に来校いただける行事を開催する。 「山二ふれあい広場」への保護者、地域住民の招待 「学校だより」の地区民への配布 ホームページによる学校情報の公開 	<input type="checkbox"/> 外部講師による「登校支援ネットワーク研修」の実施 <input type="checkbox"/> 「山二ふれあい広場」では、たくさんの保護者の協力を得て実施でき、学校や子どもの様子を知ってもらおうと同時に、今後の実施方法についても忌憚のない意見をもらった。 <input checked="" type="checkbox"/> 新築移転に伴い、地域住民に開かれた学校としてさらに努力する必要がある。 <input type="checkbox"/> 地域の人材や素材を生かした学習活動を推進し、地域の方々と学校とのつながりを多く作りだす。
	2 説明責任の状況	A Ⓑ C D	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の公開とその後の対応についてのお知らせ 「学校だより」の定期的発行 学校へ対するクレーム等には、迅速に対処し、家庭訪問をするなど対面で対応する。 	<input type="checkbox"/> 学校への要望については、迅速に、誠実に対応できている。 <input type="checkbox"/> 地域を意識した「学校だより」を発行し、学校運営について理解をもらうようにしている。 <input type="checkbox"/> 職員の対応について研修を実施する。 <input type="checkbox"/> 職員間の情報の共有化をする。
8 資質向上	1 現職教育	Ⓐ B C D	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究として「国語科」を取り上げ、国語の授業のあり方と学力の向上を図る。 外部講師による研修会や講話を積極的に実施し、教職員の資質向上を図る。 	<input type="checkbox"/> 全員が行う研究授業の実践により国語の授業の質を向上させることができた。 <input type="checkbox"/> 実技研修については外部講師に要請し、先進校の授業を見て自校化するなど教育技術を身に付けようとする姿が見られた。 <input checked="" type="checkbox"/> 校内研修や事後検討会の時間の確保が難しく、十分にできないことがあった。 <input type="checkbox"/> 週時程の工夫により、校内研修の時間確保を行う。
	2 各種研修会への参加	A Ⓑ C D	<ul style="list-style-type: none"> 研修センターで行われる、専門研修や職能研修に積極的に参加し、研鑽を深める。 県内外の公開研究会等に積極的に参加し、先進校の取り組み視察し、伝講会を行う。 	<input type="checkbox"/> 職員は研修意欲があり、多くの先生が研修センターへの申込をし研修を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 校内研究の質を高め、先進校の授業を自校化していくためにも県外出張へ効率よく行かせたい。 <input type="checkbox"/> 事務長と連携し、予算を計画的に配分し、県

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
9 特色ある 教育活動	1 体験活動を重視した学習計画	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 協働教育や志教育と連携した、地域素材と地域人材の活用 総合的な学習の時間における地域の学習 特産品である「いちご」「りんご」等の学習 地域の伝統である民謡の学習 	<p>外出張にも積極的に参加させる。</p> <p>○ 地元のイチゴ農家、リンゴ農家での地域の特産物の学習を通して、地域を知り、愛する児童を育てることができた。</p> <p>▲ 地域学習の年間計画に朱書きを入れ改善することが必要である。</p> <p>□ 生涯学習課と連携した協働教育を積極的に取り入れていく。</p>
	2 縦割り活動を生かした活動	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 運動会などの行事にも縦割り班を活用することにより、年度当初から6年生のリーダーシップと上、下学年の縦の関係をつくる。 「ふれあいタイム」を設定し、年間を通して5、6年生をリーダーとしたたてわり活動を実施。 PTAと協力し、「山二ふれあい広場」をたてわり班を生かして実施。 	<p>○ たてわり活動により、6年生のリーダー性の伸長を図ることができた。</p> <p>○ 「山二ふれあい広場」では、保護者、地域との連帯感を味わうことができた。</p> <p>▲ より充実したたてわり活動のための年間計画の見直しが必要である。</p>
	3 町の復興を意識した取組	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 「町の復興に向けて何かをしたい」という願いからスタートした、6年生の「山二小輪太鼓」への取り組みは、運動会や学習発表会、町の行事でも披露している。(平成24年度より) 6年生の総合的な学習の時間「街をきれいにしよう」での、美化活動。 	<p>○ 「震災後の町を元気づけたい」という動機からはじまった山二小輪太鼓は、新しい山二小の伝統になっている。</p> <p>▲ 新校舎移転の後、新市街地をきれいにしようとする態度や学校を大切にしようとする姿勢を育て奉仕する心を育てたい。</p>

—坂元中学校—

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
1 学校 教育 目標	<p>〈知〉 (自立) ○目的を持って自ら学び、自立する生徒</p>	A B C D	<p>(1) わかる・できる授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を明示し、授業のふり返りを取り入れた授業展開を行う。 授業での理解力を定着させるための家庭学習を取り組ませる。 <p>(2) 自らの在り方や生き方を追究する意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習を通して将来の目標やそのためにやるべきことを考えさせ、志シートに記入させる。 	<p>○ 総合的な学習や学級活動での進路学習を通して自分の将来についての目標をもつことができた。</p> <p>▲ 家庭学習時間は増えたが自分にあった自主学習の仕方がわからない生徒が多い。</p> <p>□ 生徒一人ひとりにあった家庭学習の方法等をアドバイスして取り組ませる。</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
	(徳) (奉仕) ○思いやりと奉仕の心を持った、心豊かな生徒	A B C D	(1) 集団や社会に貢献しようとする態度の育成・学級での役割を「はたす」力を学級の係等自身に付ける。 (2) 生徒自身によるボランティア活動の推進・仮設住宅の清掃活動など生徒が自ら取り組むボランティア活動を推進する。	○坂中祭の学年発表で一人ひとりの役割を自覚し、アイデアを出し合いながら製作する姿が見られた。 ▲ボランティア活動では生徒自身からの活動がほとんどみられなかった。 □生徒会役員を中心に支援をいただいた人への感謝の気持ちの表しかたを考えさせ実行させる。
	(体) (健康) ○心身ともに健康で、たくましい生徒	A B C D	(1) 自らの健康と命を大切にすること ・毎日の個に応じた健康観察の実施(健康ファイル) ・全校歯みがきタイムの実施 ・安全に関する意識の向上(薬物乱用防止・口腔講話・スマホ教室) ・委員会活動でのポスターによる啓発活動	○外部講師による安全教室の実施後の感想・アンケートに生徒の意識の向上が見られた。 ▲基本的な生活習慣の乱れ(朝食抜き・寝不足等)から体調を崩す生徒がいた。 □自分で健康管理ができるように保健だよりや保健室でのアドバイスを充実させる。 □学年PTA資料に「保健室より」を入れ、保護者への協力を求める。
2 学 力 向 上	1 基礎学力の定着	A B C D	(1) 個に応じた学習指導 ・数学科・英語科での全学年TT指導を行い、全国学力検査等で県平均以上を目標とする。 (2) 家庭学習の習慣化を図るための支援 ・自主学習ノートの活用・教員によるノート点検 (3) 放課後・長期休業中の学習支援の充実(Sタイム) ・全校生徒対象に放課後(部活動なし)等に学習会 ・部活動引退後の3年生の放課後の学習支援(まなびの森) ・長期休業中の学習支援	▲全国・県学力検査ともに県平均以下であった。 ○県学力検査の基礎・基本では26年度数学が-7.5Pから27年度-2.8Pに英語が26年度-7.5Pから27年度-5.4Pに県平均と比べてまだ低いものの差が縮まった。 ○放課後の学習支援が110日間実施され、3年生の受験勉強の支援となり、97%の生徒が第1志望の学校に進学した。 □生徒一人一人のつまづきを把握し、個に応じた支援を工夫していく。 □今後もまなびの森の学習支援をより効果的にできるようにしていく。
	2 活用する力の伸長	A B C D	(1) 互いの思いや考えを伝え合う集団作り ・課題追究のための評価の観点の明確化 ・「伝え合う活動」を取り入れた授業づくり	○「伝え合う活動」を取り入れた授業を行ったことで自分のことばで伝える力が付いてきた。 ▲県学力検査の活用/思考力・判断力・表現力

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
			(2) 全職員による研究授業の充実 ・ねらいにそった参観カードによる検討会の工夫	では県平均と比べて国語で-6P, 数学で-10P英語で-12Pとなっており活用する力身に付いていない。 □ 課題解決に必要な基礎学力の定着を図る。 □ 校内研究のねらいに即した授業研究と検討会を重ねていく。
	3 主体的・体験的学習の展開	A B C D	(1) 総合的な学習の時間「おもだか」の計画と実施 ・地域の人材や教育力の積極的な活用 ・1年 仮設住宅ボランティア活動 ・2年 職場体験学習 (2) 教科での体験的学習 ・3年 保育園訪問実習	○ 体験的な学習を通して「人とかかわることの大切さ」を実感した生徒が多かった。 ▲ 生徒自ら考え、活動する場の設定が少なかった。 □ 活動計画の中に考える場を積極的に取り入れる。
3 心 の 教 育	1 心のケアを含む 心の教育	A B C D	(1) 個に応じた心のケアの対応 ・被災生徒・家庭への支援 ・カウンセラーとの連携 ・二者・三者面談, チャンス相談の活用 (2) 道徳教育の充実 ・「道徳」の時間の充実(価値項目を意識した発問の工夫 ・一人ひとりの考えをまとめるワークシートの工夫 ・モーニングGOOD!の活用	○ 朝の会・帰りの会, 給食指導等に副担任も参加し, 生徒の変化に早く気づき, チャンス相談等の機会を多く持つことができた。 ○ 道徳の研究授業を行い, 発問等の工夫について, 教員間で検討することができた。 □ 教員どうして道徳の資料の有効活用を推進し道徳の授業を充実させていく
	2 志教育の推進	A B C D	(1) 人との関わりの中で育む社会性と勤労観 ・職場体験学習・志シートの活用・みやぎの先人集の活用 (2) 社会で果たすべき役割を考えさせる指導 ・地域における役割を考えさせ, 地域に役立つ活動をさせる。	○ 職場体験学習や職業人講話を通して, 社会性や勤労観を育むことができた。志シートへの記入・掲示により将来への志を高くもつことができた。 □ 生徒が進んで地域に役立つ活動について考える場を生徒会活動や総合の時間に設ける。
	1 体力向上に向けた取組	A B C D	(1) 授業での準備運動の工夫(保健体育科) ・ジョグ・柔軟体操・補強運動(腕立て, 腹筋等)を毎時間おこなう。	○ 準備運動を毎時間取り入れることで学年が進むにつれて体力がついた。また, スポーツテストでA判定の生徒が男子は全体の15

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
4 体力・生活習慣			(2) 全校体育での講習会実施 ・ 外部講師による効果的なトレーニング方法やケガ防止のためのテーピングの仕方の講習	%女子は全体の46%と多かった。 ▲ 中総体・駅伝等の体育的行事に向けた練習時のケガが多かった。 □ 中総体・駅伝等の体育的行事に向けた練習時のケガが多かった。
	2 基本的生活習慣の育成	A B C D	(1) 月ごとの生活目標で生徒への意識の向上 (2) 生徒会による朝のあいさつ運動・身だしなみチェックの実施の強化 (3) チャイム着席の徹底	○ 生徒の自主的な活動があいさつや身だしなみに対しての意識を高めた。 ○ 時間を意識して自ら行動できている。 ▲ 連休・長期休業後の体調不良を訴える生徒が多く、理由として朝食抜きや睡眠不足があった。 □ 学年PTAや保健だより等での呼びかけを毎回行い、保護者の協力をもらう。
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B C D	(1) 危機管理体制の確立 ・ 安全管理・危機管理マニュアルの見直しを行い、より実態に添ったものに再構築する。 ・ 避難所設営・運営マニュアルの自校化 ・ 月1回の施設点検	▲ 避難所設営・運営マニュアルの自校化等ができなかった。 □ 危機管理と避難所運営のマニュアルについて防災主任を中心に防災担当のチームで再検討し自校化を図る。
	2 大震災の経験を生かした防災教育	A B C D	(1) 防災訓練の見直し ・ 町総合防災訓練への参加 ・ 自己の安全意識を高める防災訓練の実施 (2) 防災教育を効果的に取り入れるための教育課程の作成 ・ 年間行事予定への位置づけ	▲ 町総合防災訓練・学校での2回の避難訓練への真剣な参加が見られたが、中学生としての役割を意識させる指導が足りなかった。 □ 災害時避難時の行動を自分で考えてできるように生徒に考える場面を設定し防災教育を進めていく。
6 いじめ不登校	1 いじめ防止対策	A B C D	(1) いじめ防止 ・ いじめ防止対策方針の作成 ・ 全職員によるいじめ防止のための研修会の実施 (2) いじめの把握 ・ 学校生活アンケートの実施と結果を基にした生徒対応 ・ 職員間で情報を共有し早期発見・早期対応を行う。	▲ いじめ防止対策方針の作成が遅れた。 ○ 学校生活アンケート(毎月実施)では、いじめにつながることは出てこなかった。 ○ 生徒の様子を多方面から観察し教員間で情報を共有しながら対応することができた。 □ いじめの未然防止の取組として生徒の手による啓発活動を考えさせる。 □ いじめ問題対策委員会を定期(年1回)に開催する。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
	2 不登校対策	A B C D	(1) 登校支援の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ ケース会議を定期的開催し、実態把握や対応策チームで考える。 (2) 不登校等の未然防止 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級・部活動等で自己有用感を高める指導を行う。 	<input type="radio"/> 三年女子2名が不登校傾向だったが、担任を中心にカウンセラー等が連携を図り、進路について目標をもたせ進学が決まり、登校に対する意欲が向上した。 <input type="radio"/> 児童生徒登校支援研修会として臨床心理士を講師に迎えて、事例検討を行った。 <input type="checkbox"/> 欠席や遅刻などの傾向を早く察知し、早期の対応を行う体制を作る。
7 地域 連携	1 開かれた学校づくり	A B C D	(1) 地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間における地域との協働教育の実施(老人会とのグランドゴルフ大会等) ・ 地域住民への文化祭の参観勧誘の呼びかけ ・ フリー参観ウィークの実施 	<input type="radio"/> グランドゴルフ大会、文化祭には多くの地域の方々に参加していただいた。 <input type="checkbox"/> 「坂元おけさ」の方々と生徒が共に活動できる機会を計画する。 ▲ フリー参観ウィークの参加が少ない。 <input type="checkbox"/> スマホに関する講演会などを参観期間に組み入れ参加者を増やす。
	2 説明責任の状況	A B C D	(1) 説明の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種たよりの定期的発行、学校だよりの月1回の各行政区への回覧、ホームページの利用 ・ 学校づくりアンケートや国・県学力検査等結果及び考察を家庭に配付 	<input type="radio"/> 行政区への学校だよりの回覧により学校の教育活動を周知することができた。 ▲ ホームページの更新をほとんど行わなかった。 <input type="checkbox"/> ホームページ担当者を校務分掌に明示し責任の所在をはっきりさせる。
8 資質 向上	1 現職教育	A B C D	(1) 生徒の力に反映する研究の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりをめざして、全職員授業研究を行い、実践を通して研究を進めていく。 (2) 生徒の実態や学校課題に添った校内研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 不登校生徒への対応についての研修 	<input type="radio"/> 授業づくりでは、共通の研究テーマで授業研究を行い、教科の枠関係なく取り組むことができた。 <input type="radio"/> 「登校支援ネットワーク事業」児童生徒登校支援研修会で、具体的に事例検討の中で支援の方法を確認することができた。 <input type="checkbox"/> 今後も実態に即した研修会ができるようにしていく。
	2 専門職としての資質向上	A B C D	(1) 各種研修会への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科等の指導力を高めるために研修会や公開研究会に積極的に参加する。 	<input type="radio"/> 教員が自分に必要な研修に進んで参加する姿勢が見られた。 <input type="checkbox"/> 今後も研修に参加しやすい校内体制と伝達

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策 講習の機会を作っていく。
9 特色ある教育活動	1. キャリア教育の充実	Ⓐ B C D	(1) 自分らしい生き方の実現 ・ 生徒の興味・関心に対応した地域での職場体験学習を実施する。(協働教育コーディネーターとの連携) ・ 先輩からの話を聞き、自分の生き方について考える。(高校訪問2年・職業人講話1年)	○ 地域の職場での体験により、働くことの意義や将来像について考えることができた。 □ 協働教育コーディネーターとの連絡を密に行うことで更に円滑な活動にしていく。
	2 地域と共に歩む協働教育の推進	Ⓐ B C D	(1) 総合的な学習、教科、学校行事における地域との連携を図った教育活動の充実 ・ 1年仮設ボランティア ・ 老人会とのグランドゴルフ大会 ・ 2年職場体験学習(総合) ・ 保育園実習(家庭科)・線刻画見学(社会) ・ 坂中祭広報活動(生徒の手によるチラシ配り)	○ 地域の方々とのふれ合いをもつことで、生徒自身が地域に支えられていることを再認識するとともに、社会に対して役割を果たそうする態度を育てることができた。 ▲ 震災から5年が経過し仮設ボランティアの内容の検討が必要となっている。 □ 地域の方の意見を取り入れながら実態にあった取組を計画する。

—山下中学校—

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
1 学校教育目標	〈知〉 真剣な学習活動が行われる学校	A Ⓑ C D	・ 数学と英語での少人数指導・TT指導 ・ ステップアップノートを活用した家庭学習の充実	○ 2年と3年の数学に、学習塾「まなびの森」の協力を得て、職員を配置した。質問しやすい雰囲気づくりができた。 ○ 「授業は分かりやすい」という生徒が増えた。(83% 前年度比17ポイント増) ▲ 家庭学習の内容がまだ十分とはいえない生徒がいる。 □ 授業と連動させるなど、家庭学習の意味づけを行っていく。 □ 家庭学習のノートへのコメントを工夫し、意欲を高めていく。
	〈徳〉 明るく秩序のある学校 集団としてのきまりが身に付く学校	A Ⓑ C D	・ 自己存在感を育てる支援の工夫 ・ Q-Uを活用した学級づくり ・ 震災支援への感謝の気持ちを表す活動の	○ 自己肯定感を持つ生徒の割合が高まった。 ○ 「学校が楽しい」という生徒が増えた。(90% 前年度比11ポイント増)

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
			展開	<input type="checkbox"/> 生徒が活躍する場面を意図的に設定し、褒めることを多くして自信を持たせたい。 <input checked="" type="checkbox"/> Q-Uから生徒の意識を捉え、学級づくりに生かすことができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒会を中心に、自然災害を受けた地域に対する募金活動を行った。
	〈体〉 教師と生徒が一緒になって汗を流す学校	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業での運動量の確保 部活動での基礎体力づくりの充実 全職員が生徒と共に清掃活動 	<input checked="" type="checkbox"/> 授業における運動量の確保ができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動での基礎体力づくりの取組がほとんどの部で充実してきた。 <input checked="" type="checkbox"/> 清掃指導についての教職員の意識が高まった。 <input checked="" type="checkbox"/> 「あなたは清掃活動に自ら取り組んでいる」という生徒が増えた(90% 前年度比7ポイント増) <input type="checkbox"/> 師弟同行を心がけ、清掃指導を行っていく。
2 学 力 向 上	1 基礎学力の定着	A B <input checked="" type="checkbox"/> C D	<ul style="list-style-type: none"> ステップアップノートを活用した家庭学習の充実 少人数指導やTT指導の実践 学習塾「まなびの森」による課外指導 学力向上サポートプログラム 	<input checked="" type="checkbox"/> 家庭学習の習慣化が進んだ。 <input checked="" type="checkbox"/> ステップアップノートの内容がマンネリ化している生徒が見られる。 <input type="checkbox"/> ステップアップノートの内容が良い生徒を表彰し、意欲を高める。 <input type="checkbox"/> ステップアップノートへのコメントを充実させ、個別に意欲を高めていく。 <input checked="" type="checkbox"/> 指導形態の工夫を行い、特に理解に時間がかかる生徒の指導で成果があった。 <input checked="" type="checkbox"/> 「まなびの森」による課外指導に、意欲的に参加する生徒が増えた。 <input checked="" type="checkbox"/> 学力向上サポートプログラムを活用し、充実した研修ができた。
	2 活用する力の伸長	A B <input checked="" type="checkbox"/> C D	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動を意識した授業の構築 考えを深めるためのグループ学習やペア学習の実践 	<input checked="" type="checkbox"/> グループでの討議などを取り入れた授業を各教科で実践できた。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題の読み取りが充分でない生徒がまだまだ多い。

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
	3 主体的・体験的学習の展開	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 発表する機会を意識的に取り入れた指導の継続 職場体験学習の実施 	<input type="checkbox"/> 考えさせる授業や、生徒同士が考えを深め合える授業の展開を工夫していく。 <input type="checkbox"/> 発表の仕方や、考えをまとめる手立てを指導することができた。 <input type="checkbox"/> 地域の方との交流を通して、自分の将来や生き方を考える機会となった。 <input type="checkbox"/> 地域の方々に学校について理解していただく機会となった。
3 心 の 教 育	1 心のケアを含む 心の教育	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 実態調査やアンケートによる問題の早期発見 支援員、SCとの連携強化 震災を振り返る活動 	<input checked="" type="checkbox"/> 月1回のいじめアンケートで早期発見に努めてきたが、長期にわたって発見できない事案があった。 <input type="checkbox"/> 支援員やSCとの連携、教職員間の情報の共有ができた。 <input type="checkbox"/> 職員間の情報共有を進めるために、学年代表による生徒指導担当者会を定期的を開く。 <input type="checkbox"/> 少しずつ震災に向き合えるように、丁寧に指導していく。
	2 志教育の推進	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験の実施 地域でのボランティア活動 	<input type="checkbox"/> 地域での職場体験により、自分の将来や生き方について考えることができるようになった。 <input type="checkbox"/> 地域からの要請でボランティアをさせていただくことができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒からの発信がまだまだ足りない。 <input type="checkbox"/> 生徒会を中心に生徒の思いを発信していく活動を展開していく。
4 体 力 ・ 生 活 習 慣	1 体力向上に向けた取組	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業での運動量の確保 部活動での基礎体力づくりの充実 	<input type="checkbox"/> 職員が基礎体力の重要性を認識し、全校体制で取り組むことができた。 <input type="checkbox"/> 部活動での基礎体力づくりの取組がほとんどの部で充実してきた。
	2 基本的生活習慣の育成	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導内容の共通理解・共通行動 全職員による下校指導の実施 穏やかな一日のスタートを切る朝読書 	<input checked="" type="checkbox"/> 生徒指導上の問題について、情報の共有が遅れることがあった。 <input type="checkbox"/> 教職員一丸となって指導に当たれるよう、報

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
			<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携 	<p>成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策</p> <p>告を徹底し、指示を明確にしていく。</p> <p>▲ 朝読書の時間に宿題をする生徒がいるなど、徹底できなかった。</p> <p>□ 朝読書の意義を再確認し、読書をすることを徹底していく。</p> <p>▲ 保護者の協力が得られない家庭もあり、十分な成果を上げられないこともあった。</p> <p>□ 粘り強く指導を続けながら、家庭の協力を得るようお願いを続けていく。</p>
5 防災	1 地域防災の視点に立つ危機管理体制	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携構築 防災倉庫の維持管理 避難所開設訓練の実施 	<p>○ 地域の会議の傍聴をさせていただき、地域の動きを確認することができた。</p> <p>○ 定期的に防災倉庫の点検を行った。</p> <p>▲ 避難所開設訓練は実施できなかった。</p> <p>□ 町の防災訓練と連携して避難所開設訓練ができるように働きかけていく。</p>
	2 大震災の経験を生かした防災教育	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 多様な避難・防災訓練の実施 震災を振り返る活動の実施 	<p>○ 授業中、休み時間、放課後等に避難訓練を行い、問題点を把握することができた。</p> <p>▲ 時間や場面を工夫して避難訓練を行ったが、煙体験等は実施できなかった。</p> <p>○ 学年に応じた防災学習が実施できた。</p> <p>□ 少しずつ震災に向き合えるように、丁寧に指導していく。</p>
6 いじめ 不登校	1 いじめ防止対策	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 月1回のアンケート実施 Q-Uを生かした学級づくり 教職員の情報共有の強化 	<p>▲ 月1回のいじめアンケートで早期発見に努めてきたが、長期にわたって発見できない事案があった。</p> <p>○ いじめと思われる事例について、迅速に対応できた。</p> <p>○ 支援員やSCとの連携や、教職員間の情報の共有ができた。</p> <p>□ 職員間の情報共有を進めるために、学年代表による生徒指導担当者会を定期的を開く。</p>
	2 不登校対策		<ul style="list-style-type: none"> 早めの家庭訪問 	<p>▲ 一人一人の状況に合わせて対応を考えて実</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
		A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 別室での指導の充実 チームとしての対応 SCとの連携 	<p>践しているが、登校に結びつかない生徒がいる。</p> <p>□ 家庭との連携を取りながら、学年担当を中心にチームとしての指導を継続していく。</p>
7 地域 連携	1 開かれた学校づくり	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 各種たよりの発行目標回数を設定 ホームページの定期的な更新 	<p>○ 各種たよりを積極的に発行し、目標回数を超えることができた。</p> <p>○ ホームページを適宜更新した。</p> <p>○ 「学校は家庭への連絡や情報提供を継続的に行っている」という保護者が増えた。(84% 前年度比6ポイント増)</p>
	2 説明責任の状況	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方からの相談や苦情への丁寧な対応 生徒・保護者アンケートの実施、結果公表 	<p>○ 保護者や地域の方の訴えを丁寧に聞き取り、丁寧に対応することができた。</p> <p>○ アンケートの結果を学校だよりで知らせることができた。</p> <p>○ 1月から学校だよりの地域回覧を実施できた。</p>
8 資質 向上	1 現職教育	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用 研修会の伝達講習 	<p>○ 外部講師を活用した研修は、いい刺激を受けることができた。</p> <p>○ 職員会議の中での短い伝達講習になったが、職員間で研修の内容を共有することができた。</p>
	2 校内研修	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究の充実 教科の特性を生かした授業の工夫 	<p>○ ワークショップ型の検討会を行い、充実したものにできた。</p> <p>▲ 教科ごとの研究が中心になり、全体としての方向性が見えづらかった。</p> <p>□ 気軽に授業を参観できる雰囲気をつくって行く。</p>
9 特色 ある 教育	1 特別支援学校との交流	A B C D	<ul style="list-style-type: none"> 居住地校学習推進事業での生徒による交流会の計画立案 	<p>○ 学年全体との交流では、生徒たちが企画を考えるなど、本校・支援学校双方の生徒にとって有意義な交流を行うことができた。</p> <p>▲ 特別支援学級での交流が多く、普通学級との交流が少なかった。</p>
	2 地域でのボランティア活動		<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極的な参加 	<p>○ 生徒・職員共に意欲的に参加することができ</p>

No.	項目	評価	主な具体的対策や方策	成果と課題 ○:成果 ▲:課題 □:対応策
活動		A <input checked="" type="radio"/> B C D	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア担当の校務分掌への位置づけ 生徒主体の活動の構築 	<p>た。</p> <p>○ ボランティア部の顧問を校務分掌に位置付けた。</p> <p>□ 生徒会から広く呼びかけ、活動の輪を広げていく。</p>
3	学習塾との連携	A <input checked="" type="radio"/> B C D	<ul style="list-style-type: none"> 放課後や長期休業中の課外指導 授業への参加 	<p>○ 希望者の参加としたことで、参加者の意識が高く充実した学習会になった。そのため、回を追うごとに参加希望者が増えていった。</p> <p>○ 2年と3年の数学に、学習塾の職員を配置した。質問しやすい雰囲気づくりができた。</p>

(4) 学校給食の概要について

学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のために、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着け、好ましい人間関係を育てるなど多様な豊かな教育的なねらいを持っています。

一方、不規則な食事や偏った食事内容、さらに家庭環境の変化など見過ごすことのできない問題等もみられることから様々な課題等にも対応してきました。

① 給食回数

小学校 167回～180回

中学校 161回～172回

*学校行事等の持ち方によって学校ごとに回数が異なります。

② 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食（麺給食併用） 週1回（水）

③ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品費等

保護者負担 小学校 278円（児童1人 1食あたりの食材費）

中学校 319円（生徒1人 1食あたりの食材費）

給食の単価については、平成26年2月の学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度より小学校は8円、中学校は9円増額しました。平成27年度は据え置きです。

④ 米飯・パン納入業者

米飯は株式会社加賀屋（名取市）、パンは有限会社ささもり菓子舗（角田市）

⑤ 給食調理・給食運搬業務委託事業

・給食調理業務委託事業の委託先は、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社仙台営業所で契約期間は、平成25年3月1日から平成28年3月31日で、坂元中学校給食室で調理業務を実施しています。

・給食運搬業務委託事業の委託先は、社会福祉法人山元町社会福祉協議会で契約期間は、平成25年3月1日から平成28年3月31日で、コンテナ車による配送を行っています。配送先は、坂元中学校から坂元小学校へ、及び山下中学校から山下第一小学校です。

⑥ 給食調理等職員数

調理場	栄養士	栄養教諭	給食従事員（含む臨時職員）	計	備考
坂元中学校	1名		業務委託 5名	6名	
山下中学校		1名	9名	10名	

⑦ 食物アレルギー対応

保護者からの申し出があった場合、医師の診断・指示書に基づき、保護者と学校関係職員とが面談等を実施し対応しています。

学 校	除去・代替食	弁当持参	エピペン所有者	備 考
坂元小学校	1名	0名	0名	
山下小学校	3名	1名	1名	
山下第一小学校	0名	0名	0名	
山下第二小学校	1名	0名	0名	
坂元中学校	2名	0名	1名	
山下中学校	1名	0名	0名	

・アレルギー対応児童生徒には、上記対応の外、詳細献立・食品成分表を配付しています。

・エピペンとは、食物アレルギーなどによるアナフィラキシーがあらわれた時に使用し、症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤のこと。

⑧ 特色ある事業

保健福祉課と産業振興課との共同で郷土料理（はらこめしづくり）体験事業を小学校5年生を対象に全小学校で実施しています。

山下第一小学校	平成 27 年 10 月 27 日 11名	山下第二小学校	平成 27 年 10 月 30 日 25名
山下小学校	平成 27 年 10 月 29 日 31名	坂元小学校	平成 27 年 11 月 6 日 23名

・実施に当たっては、宮城県漁業協同組合山元支部と山元町食生活改善推進員協議会から食材の提供や調理等の指導の協力をいただいています。

⑨ 食材の放射性物質検査について

食品放射能測定システムによるセシウム 134・137 の検査を実施

平成 24 年 4 月 25 日より週 2 回、2 種類の検査を実施、平成 27 年度は、延べ 79 回検査を実施し、検査結果は、いずれも厚生労働省が示す放射性セシウムの新基準値を下回るか不検出でした。

⑩ 山元町立学校給食運営審議会を開催

期 日	会 場	主 な 議 題 等	備 考
平成 28 年 2 月 17 日	中央公民館 会議室	1 学校給食調理業務委託について 2 山下中学校区学校給食共同会計について 3 平成 28 年度学校給食運営について	

・主な議題としては、学校給食調理業務委託に係る公募型プロポーザルの審査結果について報告がありました。なお、契約期間は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 7 月 31 日です。

4 生涯学習の推進

(1) 生涯学習の充実

生涯学習分野においては、教育方針を基に社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点施策として、地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。中でも、より一層の協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進しました。

また、社会教育施設の復旧が概ね完了したことに加え、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・社会体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

① 家庭教育の活性化

協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、そして行政が一体となって家庭教育の活性化に努めました。

ア. 家庭教育事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子育てひろば「きらり☆」 (乳幼児・幼児と保護者対象)	6/25 ～ 1/21	6	親子 27 組 計 60 人 (延べ 99 組 219 人)	協力:家庭教育支援 チーム「夢ふうせん」
2	家庭教育・幼児学級 (来春就学予定の幼児と保護者対象) ※ 4 小学校で実施	6/11 ～ 2/12	12	親子 69 組 138 人 (延べ 207 組 414 人)	協力:家庭教育支援 チーム「夢ふうせん」、各小学校

イ. 保育所及び幼稚園における家庭教育の推進事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	親子演劇会 (やまもと幼稚園)	7 月	1	100 人	鑑賞者:園児、保護者、なかよし会会員

ウ. 家庭教育支援者の養成

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子育てサポーターリーダー ネットワーク会議	5/8・ 2/19	2	(延べ) 5 人	主催:県教育委員会
2	子育てサポーター リーダー養成講座	9/1～ 12/7	3	(延べ) 13 人	主催:県教育委員会
3	子育てサポーター 養成講座	6/5～ 7/21	3	(延べ) 7 人	主催:県教育委員会

4	家庭教育支援チーム「夢ふうせん」 スタッフ研修会	11/19	1	12人	岩沼みなみプラザの取り組みを視察
5	子育てサポーター、サポーターリーダーフォローアップ研修会	12/10	1	6人	主催：県教育委員会
6	宮城県家庭教育支援チーム 員研修会	7/21・10/27	2	(延べ) 2人	主催：県教育委員会

エ. 応急社会教育施設「内手館」の活用

親子共同保育団体及び家庭教育支援団体に対し、「内手館」を活動の場として提供し、団体の運営支援を行いました。

No.	団体名	内容	活動日
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日
2	家庭教育支援チーム「夢ふうせん」	家庭教育支援	毎週火曜日

「内出館」の利用状況（カッコ内は未就学児数）

利用団体名	回数	利用人数	内訳
育児サークル「なかよし会」	30	591人 (296人)	男：197人(181人) 女：394人(115人)
家庭教育支援チーム「夢ふうせん」	44	781人 (353人)	男：232人(196人) 女：549人(157人)
合計	74	1,372人 (649人)	男：429人(377人) 女：943人(272人)

オ. 家庭教育啓発情報紙の発行

家庭教育啓発情報紙を発行しました。

No.	情報紙名	回数	発行部数
1	子育て通信「夢ふうせん」	年6回	各回600部

② 青少年学習活動の支援

協働教育の一環として、青少年の学習、社会活動への参加を促進するため、活動場所の提供や指導者の確保、情報の収集・提供等を軸とした学習環境の充実に努めました。

また、各種イベント、ボランティア、まちづくり等への積極的な関与を促し、青少年関係団体の育成や活動への支援、また、活動・発表の場の提供を行いました。

ア. 生涯学習指導者養成事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	インリーダー講習会 (小学5年生対象)	3/6	1	5人	会場：中央公民館・勤労青少年ホーム 協力：山元ボランティアサークル虹

2	ジュニア・リーダー 初級研修会 (小学6～中学3年生対象)	3/25 ～26	1	7人	会場：中央公民館・勤 労青少年ホーム
3	学校開放 「やまもと楽校」	11/14	1	30人	会場：山下中学校 協力：町内学校教職員 12人
4	青年活動活性化事業 「勤労ホームロビー ミニコンサート」	12/12 ～ 2/28	3	(延べ) 80人	会場：勤労青少年ホー ム

イ. 主催事業

・成人式 平成28年1月10日(日) 参加者数(新成人)128人

・実行委員会 実行委員12人 委員会の開催9回

新成人有志が実行委員会を組織し、自らアトラクションの企画・運営を行い、
記念となる成人式を作り上げました。

ウ. 補助事業関係

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	みやまっこクラブ (山下小・山一小・山二 小対象)	5/11 ～ 3/7	29	25人 (延べ 551人)	会場：山下第一小学校 スタッフ数11人 (延べ182人)
2	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/8 ～ 3/4	31	32人 (延べ 861人)	会場：坂元小学校・坂 元公民館 スタッフ数14人 (延べ229人)

エ. 共催事業関係

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	みやぎ県民大学 「地域力向上講座」	12/17 ～ 2/18	5	(延べ) 38人	主催：県教育委員会 会場：中央公民館 視聴覚室

③ 地域と世代間交流・学習活動と発表の場の提供

子どもから高齢者まで、潤いと生きがいのある生活を送ることができるよう、健康・教養・趣味等の学習ニーズに対応できる学習・実践・発表機会の場の提供を行ない、地域間や世代間交流の推進と支援に努めました。

ア. 主催事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	田んぼの生き物調査隊	6/27	1	11人 (親子5組)	会場：町内の水田・ 勤労青少年ホーム

イ. 共催事業等

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子どもも大人も みんなで遊び隊	5/3, 4 ・ 8/1, 2	2	1,700人	会場：中央公民館 主催：子どもも大人も みんなで遊び隊

ウ. 高齢者向け実施事業

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	いきいきシニアライフ (山下地区 60歳以上)	7/22 ～ 11/27	5	29人 (延べ90人)	主催：中央公民館 会場：中央公民館
2	いきいきシニアライフ (坂元地区 60歳以上)	7/24 ～ 11/17	5	11人 (延べ44人)	主催：中央公民館 会場：坂元公民館

④ コミュニティ振興関係事業

コミュニティ関係団体及び事業参加者に対し補助金・負担金の交付を行いました。また、関係団体の活動を支援し、活性化に努めました。

ア. コミュニティ関係団体に対する補助金の交付

No.	団体名称	金額(円)
1	すばらしいやまもとを創る協議会	70,000

イ. コミュニティ関係機関に対する負担金

No.	団体名称	金額(円)
1	公益財団法人宮城県国際化協会	10,641

ウ. 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する助成

No.	事業名	金額(円)	備考
1	第19回姉妹・友好都市 シニアリーダー研修・交流会	30,000	@5,000円×6人 会場：北海道伊達市

⑤ 学校教育支援

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、指導者や安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図り推進しました。

No.	学校名	学年	期間	内容	備考
1	山下小	1・2	4/10	交通安全教室安全見守り	ボランティア7人
		4～6	5/12～	鼓笛金管バンド指導	指導者1人(年12回)
		全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人

		4	8月～	和太鼓演奏	ボランティア1人
		4	9/18	学年PTA行事での福祉体験	ボランティア4人
		2	11/16	町探検安全見守り	ボランティア7人
		全	11/19	持久走大会安全見守り	ボランティア7人
		6	1/20	防災備蓄倉庫見学	講師1人
		6	1/26	山元町議会見学	講師2人
		全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア5人 (年20回)
2	山一小	全	10/1	国際理解集会(講師派遣)	講師1団体(6人)
		3・4	1/22	盲導犬体験学習	講師2人1犬
3	山二小	1・2	4/10	交通安全教室安全見守り	ボランティア7人
		全	6/11	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人
4	坂元小	3	6/11	公民館見学	公民館職員2人
		全	6/17	スポーツテスト計測補助	ボランティア3人
		3	6月～	りんごの学習指導	指導者1人(年4回)
		5	7月～	いちごの学習指導	指導者1人(年4回)
		2	11/21	地域との交流	ボランティア1団体
		1～4	2/24	国際理解授業	講師1団体(6人)
5	山下中	2	5/14 ～16	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協働教育コーディネーター1人
		全	5/21	情報モラル授業 (講師派遣)	講師1人
6	坂元中	2	9/12 ～14	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協働教育コーディネーター1人

⑥ 協働教育推進に係る成果と今後の活動に向けて

ア. 家庭教育支援

- ・未就学児とその保護者を対象とした家庭教育講座や家庭教育学級・幼児学級などの事業を数多く実施することで、教育の出発点と言える家庭教育の重要性や、人と人とのコミュニケーションの大切さを理解していただくことができた。
- ・子育てサポーター・サポーターリーダーとの連携による家庭教育に関する支援、または同年代の子どもを持つ保護者同士の交流の場を設定したことにより、地域が一体となって子育て支援・家庭教育支援をしていく土壌づくりにつながった。
- ・県や教育事務所主催の子育てサポーター養成講座を積極的に受講していただくことにより、サポーターとしてのスキルアップ、家庭教育支援の中心的役割を

担う人材の育成につながった。

イ. 地域活動支援

- ・放課後子ども教室では、特技や趣味をお持ちの町内の方々に講師になっていただき、様々な体験活動を実施できた。講師をしていただいた方からは、「ぜひ来年も教えたい」という声が多く聞かれ、講師のスキルアップや生き甲斐作りにつながった。教えていただいた子どもたちのみならず地域の方々にも良い効果を与えている。
- ・学校開放講座では、先生方に協力をいただき、先生方の趣味や特技を生かした講座を町民に提供できた。当日は雨天ながら30人を超える方々に来校いただき、地域に開かれた学校をアピールすることができた。
- ・青年層の活動団体の協力を得て、ロビーコンサートを実施した。小学生から高齢者まで様々な世代が参加していただいたおかげで、世代間の交流を図ることができた。

ウ. 学校教育支援

- ・年度や学期の始めに、町内小中学校へ外部講師・支援ボランティア希望調査を実施し、学校や先生方の意向を事前に把握することで、迅速及び適切な人材の調整・派遣を行うことができた。
- ・読み聞かせボランティアの協力者を発掘し、町内4つの小学校で朝の読み聞かせ活動を行い、協力者には、子どもたちからお礼状を受け取り、お礼の言葉に大変喜んでいただいていた。また学校から発表会や卒業式等への招待もあり、学校と地域の距離を縮め、さらには、外部講師や支援ボランティアの意欲向上につながった。
- ・中学校の職場体験学習では、町内70の事業所、企業に体験受け入れの協力をいただき実施することができた。地域の子どもは地域で育てる意識の向上につながっている。

エ. 今後の活動に向けて

- ・町内では様々な方の協力により協働教育の推進が図られる一方で、同じ人がたくさん役割を担っているケースもあり、また、協力いただいている方が高齢化しているなどの課題も見られる。そこで、協働教育の更なる理解・啓発を図るための広報活動（チラシ配布、ホームページ作成等）に取り組みたい。
- ・協働教育に係る地域教育資源（人、もの、こと、場所）は、町内にまだまだ豊富にあると思われる。「地域の子どもは地域で育てる」ことを推進するために、地域とのつながり、学校とのつながり、家庭とのつながりをさらに密にしていきたい。
- ・学校が、学校教育支援のための外部講師や支援ボランティアを気軽に探し、依頼することができるように、地域教育資源一覧表の作成に取り組み、学校に配付できるようにしたい。

⑦ 社会教育関係団体の育成・支援

社会教育関係団体の育成と社会教育の推進、及び公民館の円滑な運営のため、各種協議会に参加し情報交換等を行いました。また、各団体への自主的な活動と運営に向けた支援を行い、社会教育の振興に努めました。

ア. コミュニティ関係機関に対する負担金

No.	団体名称	金額 (円)
1	宮城県社会教育委員連絡協議会	10,000
2	仙台管内子ども会育成連絡協議会	10,000

イ. 公民館関係団体に対する負担金

No.	団体名称	金額 (円)
1	亶理地区防災安全協会	4,000
2	宮城県公民館連絡協議会	5,100
3	全国公民館振興市町村長連盟	5,000

ウ. 社会教育関係団体等育成のための補助金の交付・事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額 (円)	備考
1	なかよし会	13,000	
2	山元町青少年育成推進協議会	70,000	
3	山元町小中学校連合父母教師会	20,000	
4	山元ボランティアサークル虹	21,000	
5	山元町坂元地区高校生親の会	12,000	
6	山元町文化協会	266,000	
7	山元町老人クラブ連合会	309,000	
8	各単位老人クラブ (5団体)	242,500	@48,500

エ. 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額 (円)	備考
1	ジュニア・リーダー中級研修会	3,388	参加者3人
2	ジュニア・リーダー上級研修会	4,000	参加者3人

オ. 社会教育関係団体の実施事業に対する補助金

No.	事業名称	金額 (円)	備考
1	第47回日本PTA東北ブロック研究大会／第64回宮城県PTA研究大会亶理・山元大会	500,000	亶理町・山元町の各会場で開催

標記のPTA研究大会は、平成27年10月3日に各分科会が亶理・山元町内の小中学校と公民館を会場に、4日には全体会が東北6県のPTA会員約1,900名が参加して名取市文化会館において開催されました。

とりわけ山元町内では、二つの分科会が開催され、山下中学校体育館を会場にした第5分科会では、「家庭と中学校教育」というテーマのもと、非常時・災害時における家庭・地域と中学校教育の関わりについて、当時山下中学校長であった渡邊

修次氏が基調講演をし、その後パネルディスカッションと続きました。更に、山元町中央公民館の第7分科会では、「ふるさとの復興」をテーマに東日本大震災からのふるさと復興について、農業生産法人GRAの橋元洋平氏が志教育の取組みを報告し、パネルディスカッションでは、女川町の小中学校の統廃合の報告がありました。

震災復旧・復興の中で、当初、亘理・山元大会が本当に開催できるのか、という懸念がありましたが、いずれの分科会でもこの地で開催する意義を熱く語られることが多くあり、今後の復興への大きな道筋をつけることになった大会でした。

⑧ 生涯学習施設等の環境整備

就業機会の創出を目的として宮城県が実施する緊急雇用創出（震災等緊急雇用対応）事業補助金により、4人の臨時職員を雇用し、生涯学習課が所管する施設の草刈り作業や清掃作業、軽微な修繕等を行い、各施設の環境整備に努めました。

⑨ 社会教育・社会体育施設の修繕工事等

平成27年度は、より快適に利用できる施設にするために中央公民館及び勤労青少年ホームのトイレ改修工事（温水洗浄機能付洋式暖房便座への改修）、及び緊急時の安全性の確保のために体育文化センターの消防設備（避難誘導灯）の改修を行いました。また、施設の管理運営上、利用者が安全に施設を利用できるよう小破部分の維持管理に係る修繕等を行い、環境の整備に努めました。

ア. 施設の修繕工事等

No.	工事名等	金額（円）
1	中央公民館トイレ改修工事	2,362,822
2	勤労青少年ホームトイレ改修工事	1,057,538
3	体育文化センター避難誘導灯改修工事	707,637
4	体育文化センター管理室エアコン改修工事	158,760

(2) 生涯スポーツの推進

震災の影響により、体育施設のうち町民運動場は応急仮設住宅の用地として緊急的に使用されていることから、以前のような社会体育の事業実施や関係団体への活動場所の提供、また、広域的な交流を目的とした大会等の実施や、各種大会等の開催については難しい状況となっています。

しかし、スポーツに親しむ環境の整備が必要なことから、施設の利用調整等を行うとともに、各種関係団体への育成や、仮設住宅の集会所を会場としたニュースポーツ体験事業等を実施し、スポーツの推進を行いました。

① スポーツ活動の推進

町民の健康増進とスポーツの普及発展を図るため、スポーツ大会等の開催や、他機関が開催する大会へ参加しました。また、スポーツ推進員13名を委嘱し、地域住民等へ広くスポーツ活動の促進を図るとともに、機会を捉えてニュースポーツ等の体験会を開催するなどし、スポーツの普及に努めました。

また、スポーツ人口の拡大のため、スポーツ少年団を対象とした事業を実施し、生涯スポーツの基盤づくりに努めました。

ア. 事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	スポーツ少年団入団式 及びスポーツテスト	5/24	1	97人	会場：山下小学校校庭 及び体育館
2	トレーニング器具講習会	6/26 ～ 3/25	6	(延べ) 20人	会場：体育文化センター 指導者：スポーツ推進員
3	ニュースポーツ 仮設住宅出前教室 (お茶っこサロン：6ヶ 所)	6/26 ～ 2/12	9	(延べ) 101人	会場：各仮設住宅集会所 指導者：スポーツ推進員
4	未来への道 1,000 km 縦断リレー	7/31	1	5人	タスキ中継所：山一 小、役場、体育文化 センター
5	ニュースポーツ体験会 (パークゴルフ)	8/2	1	(延べ) 60人	会場：歴史民俗資料館 前芝生
6	宮城ヘルシー2015 ふるさとスポーツ祭 仙台管内大会	8/30	1	37人 (※)	会場：県総合運動公園 主催：県・県教育委員 会ほか
7	スポーツ少年団 第32回ミニオリンピック	10/18	1	107人	会場：坂元中学校校庭
8	ニュースポーツ体験会 (パークゴルフ)	11/22	1	(延べ) 111人	会場：歴史民俗資料館 前芝生
9	10,000人寒稽古 (剣道、柔道、空手道)	1/30	1	36人	会場：体育文化センター

(※) 山元町からの出場人数。種目毎の出場人数は、ペタンク6人、グラウンドゴルフ10人、家庭バレーボール21人。

② スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い、広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手(団体・個人)に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

賞賜金については、東京オリンピックが開催されること等によって、今後より一層のスポーツ振興を図ることが必要だと考えられることから、平成27年4月より交付対象者や交付金額を見直し施行しました。

○主な改正点

- ・全国大会出場 (個人) 5,000円 ⇒ 10,000円
- ・ " (団体) 30,000円 ⇒ 50,000円

補助金及び賞賜金の交付

No.	団体名称等	金額 (円)	備 考
1	山元町体育協会 (補助金)	1,246,000	13 団体が加盟
2	各行政区 (地域スポーツ・レクリエーション 事業補助金)	60,000	@10,000 ×6 行政区
3	全国大会出場者 (全国大会出場等賞賜金)	180,000	個人：13 人 団体：1 団体

(3) 魅力ある地域文化の醸成

より豊かな地域社会を醸成するため、伝統文化の保存・継承、新しい地域文化の創造・発信、町民文化活動の育成への支援、伝統芸能保存団体などの育成、町民個人と文化芸能との出会いや文化活動に関わる人同士の交流の促進などに取り組んできました。

しかし、震災により、これまで培われてきた伝統文化を継承する地域コミュニティが分散したばかりでなく、津波により伝統道具や資材が流失するなど、伝統文化の保存・継承が危ぶまれる状況となりました。このような状況を踏まえ、無形文化財保存団体等による「山元町無形文化財復興協議会」を設置し、改めて情報交換を密にする中で、各支援団体等から補助を受けるなど保存・継承活動に取り組みました。

また、町内には、縄文時代から近世までの多くの埋蔵文化財（以下、遺跡）が残されており、これらは山元町の歴史と文化の原点ともいえる貴重な文化財といえます。近年、震災復興に関わる開発行為に伴い、町内各所で継続的に遺跡の発掘調査が実施されております。これらの調査では、合戦原遺跡で人や動物などの多様なモチーフが描かれた線刻画が発見されております。こうした開発等に伴う遺跡の調査については、法の規定に基づき、適正な保存・記録を行うとともに、発掘現場の現地公開等を行い埋蔵文化財の普及啓発に努めました。

① 芸術文化の振興

関係機関並びに関係団体と連携を図りながら各種事業を実施し、芸術文化に身近に親しむ機会を提供しました。

ア. 芸術文化活動事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備 考
1	第2回展示まつり	6/13 ～14	1	430 人	主催：山元町文化協会
2	宮城県巡回小劇場 影絵人形劇 「白いりゅう黒いりゅう」他	9/1	1	100 人	主催：県教育委員会 共催：町教育委員会
3	第39回町民文化祭	11/1 ～3	1	2,500 人	主催：山元町文化協会
4	第19回文化推進事業 「新ベニスの商人」	11/2	1	100 人	主催：山元町文化協会

② 文化財の保存・保護

ア. 文化財保護委員会

文化財に関する諮問機関として文化財保護委員5名を委嘱し、町文化財等に関する答申を行いました。

町指定「蛇塚と松」の松について、樹木医の「既に枯損している状況である。」との診断に基づき、教育委員会から「指定解除の是非」について諮問を受け、審議の結果、「指定解除が相当である」との答申を行いました。

・開催回数 3回

イ. 埋蔵文化財の保護（常磐自動車道関係）

常磐自動車道建設に伴い、山元ICから県境までの常磐自動車道施工路線内に所在する埋蔵文化財（遺跡）について、文化財保護法に基づき、平成25年度までに現地発掘調査は完了しています。

平成27年度は、報告書作成のための出土遺物の整理・報告書の執筆等を引き続き行い、谷原遺跡の報告書を刊行し本業務を完了しました。

ウ. 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

平成26年8月から実施している宮城病院地区防災集団移転促進事業及び災害公営住宅建設事業に伴う合戦原遺跡の埋蔵文化財発掘事業を引き続き行いました。横穴墓54基中、残り20基を調査しました。

38号墓玄室奥壁に線刻画の存在を確認しました。（5月26日～29日）

7月25日 第2回合戦原遺跡現地説明会を開催、横穴墓や線刻画を公開しました。（来場者は、450名）

「現地保存困難である」ことを確認、移設保存の方法について文化庁、奈良文化財研究所、県、東北歴史博物館等の指導・支援を受け、検討会を開催しました。

なお、支障物件移設に伴う未調査横穴墓2基、及び線刻画移設保存業務については、次年度に繰り越しました。

〔線刻画移設保存の検討経緯〕

No.	日 時	検討概要
1	平成27年 8月21日(金)	線刻画現地確認、壁質の土質を確認、移設保存の可否を検討、固化実験の必要性確認
2	9月14日(月)	移設保存の方法・手法を検討、本格的各種土質固化実験開始
3	10月22日(木)	国宝修理装講師連盟技師による現況確認と移設方法検討、移動方法、展示予定場所確認
4	11月2日(月)	「立体剥ぎ取り」の手法を中心に検討、各種実証実験開始
5	12月24日(木)	実証実験結果の検証と新たな手法の検討
6	平成28年 1月11日(月)	実証実験結果の検証と新たな手法の検討

7	1月30日(土)	同土質横穴簿(36号墓)による実証実験結果の検証と更に複数の薬剤による実験の必要性確認
8	3月4日(金)	実証実験結果の検証と手法の絞り込み

東日本大震災に伴う防災集団移転等の復興事業や被災した個人の住宅再建等に
 伴い破壊される恐れのある埋蔵文化財について、復興交付金を活用し、その発掘・
 調査・記録を行いました。

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査内容	調査時期	備考
1	北泥沼遺跡 ほか9遺跡	牛橋区 ほか	ほ場整備	確認調査	5・6・2月	
2	浜遺跡 ほか1遺跡	花釜区 ほか	防災公園	確認調査	6月	
3	北中須賀遺跡	笠野区	農産物出荷 貯蔵施設	確認調査	12月	
4	大平館跡	大平区	個人住宅	確認調査	12月	
5	小平館跡	小平区	個人住宅	本調査	1月～2月	

エ. 埋蔵文化財の保護(その他の開発に係る事業)

民間事業者による開発や震災に起因しない個人の事業活動に伴い破壊される恐
 れのある埋蔵文化財について、その発掘・調査・記録を行いました。

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査期間	備考(調査面積等)
1	犬塚館跡	中浜区	土砂採取	4月～3月	約60,600㎡
2	北経塚遺跡	小平区	店舗開発	8月～10月	約1,600㎡
3	小平館跡	小平区	宅地造成	4月～3月	発掘調査報告書刊行

オ. 文化財包蔵地の環境整備

町内の遺跡に設置している標識について、経年劣化により更新が必要な標柱の建
 て替えや、町の史跡である中島館跡・愛宕山館跡・大條氏御廟・茶室等の草刈り、
 枝払い等を実施し、環境整備に努めました。

③ 伝統文化の保存と展示・活用と活動場所の環境整備

歴史民俗資料館において、町内に残る貴重な文化遺産(歴史・美術・民俗的な資
 料や自然環境に関する資料)の収集保存・整理を行い、収蔵品は常設展により展示
 することに併せ、『収蔵資料展』、企画展『発掘された山元町一常磐道関連遺跡 発
 掘調査成果展2-』を開催し、広く歴史文化の理解と振興に努めました。

また、復興事業に伴う合戦原遺跡発掘調査で発見された線刻画等について、その
 速報展を企画展に併せて開催しました。

併せて、関係する資料館等との情報共有を図るため、協議会等に参画し、情報交
 換や運営を行いました。

ア. 文化財行政団体への参画及び負担

No.	団体名称	金額 (円)
1	宮城県博物館等連絡協議会	9,500
2	宮城県南資料館等連絡協議会	5,000
3	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500

④ 無形民俗文化財保存継承団体の活動支援

ア. 文化庁の補助事業を活用し、無形民俗文化財の復旧、団体の育成、後継者の養成などの事業を実施しました。

- ・ 當護稻荷大神楽保存会後継者養成事業
- ・ 坂元神楽保存会用具新調事業

イ. 活動の活性化を図るため、発表機会に関する情報提供等を行い、伝統芸能を広く発表することに努めました。

- ・ 當護稻荷大神楽保存会
 : 仙台青葉まつり2015前夜祭 (仙台市: 5月16日)
 : 第39回山元町町民文化祭 (中央公民館: 11月3日)
- ・ 坂元おけさ保存会
 : 第30回国民文化祭 (鹿児島県: 10月30日～11月2日)
- ・ 坂元神楽保存会
 : 第39回山元町町民文化祭 (中央公民館: 11月3日)

ウ. 団体への補助金の交付

No.	団体名称	代表者名	金額 (円)
1	坂元神楽保存会	阿部 清	10,000
2	坂元おけさ保存会	阿部美代子	10,000

(4) 社会教育・社会体育施設の活用

震災前には広く町民に活用されていた施設も、仮設住宅・仮設商工団地用地、震災関連の物資倉庫用地として使用されていることから、施設の運用には未だ多くの制約が残っております。

このような状況の中、貸出を行っている施設については、町民の生涯学習活動・スポーツ活動の拠点として震災前の賑わいを取り戻しつつあります。

また、牛橋公園内の各施設についても、利用者の利便性を確保するために利用調整等を行い、社会体育・スポーツ振興に努めました。

① 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数 (人)	前年度利用者数 (人)
1	中央公民館	53,723	45,228
2	勤労青少年ホーム	20,107	12,184
3	坂元公民館	11,667	14,541
4	深山山麓少年の森	31,629	21,177
5	歴史民俗資料館	2,457	1,819
6	ふるさと伝承館	4,276	5,237

② 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数 (人)	前年度利用者数 (人)
1	体育文化センター	14,182	15,249
2	山寺深山グラウンド	2,913	3,936
3	真庭グラウンド	1,300	1,300

③ 牛橋公園施設の利用状況

No.	施設名	利用者数 (人)	前年度利用者数 (人)
1	野球場	2,286	1,871
2	ゲートボール場	120	68
3	多目的広場	1,500	635
4	管理棟	150	364

利用状況については、震災後には各施設を避難所や支援物資一時保管庫等として使用していたことから、一時的に利用人数が激減しました。

しかし、震災から5年余を経過する中で、町民の学習意欲・活動意欲の高まり等も相まって、利用人数は震災前の水準に戻り、また、その水準を上回りつつあります。

中でも、深山山麓少年の森では、深山山頂から復興が進む街並みが一望できることや、民間NPO団体が山頂に設置した「鎮魂の鐘」等を目的とした登山に伴う施設利用者等の増加、また、勤労青少年ホームではイベント開催により利用人数の増

加につながっていると考えられます。

牛橋公園は、町内のスポーツ愛好団体の利用はもとより、町外者による利用も多く、山元町を訪れる交流人口の増加にも寄与していると考えられます。

(5) 社会教育施設等の整備計画

防災拠点・復興拠点支援施設である（仮称）坂元地区地域交流センター新築工事基本設計・実施設計業務、及び旧中浜小学校の遺構保存整備計画策定業務、並びにパークゴルフ場整備の適地選定を含めた検討を行いました。

① 防災拠点・復興拠点支援施設

業務名：（仮称）坂元地区地域交流センター新築工事基本設計・実施設計業務委託

・契約日：平成27年8月3日

・履行期間：平成27年8月4日～平成28年3月25日

・契約金額：39,351,960円

○住民意見交換（ワークショップ）

実施日時	参加者	内 容
第1回 平成27年7月23日	31名	説明事項：坂元支所（公民館）機能の移転 新坂元駅周辺地区防災拠点施設整備事業 意見交換：施設の配置案・設備・機能等 質 疑：公園・緑地との一体的利用について
第2回 平成27年9月5日	37名	説明事項：配置プラン（5案） 質 疑：公園・緑地へのトイレ設置について。JA敷地決定の経緯について
第3回 平成27年9月28日	32名	説明事項：配置プラン（6案） 質 疑：公園・緑地へのトイレ設置について 協 議：配置プラン6案から2案（東側1案及び西側1案）に絞る
第4回 平成27年10月10日	40名	説明事項：緑地・公園に公共柵の設置 ワークショップ：5グループに分かれ、配置案及び施設の機能について検討 協 議：配置プラン2案から1案（西側2階建案）に絞る その他：11月に基本設計を示すことを伝える
第5回 平成27年11月13日	42名	説明事項：2階建案の採用理由（平常時の使い勝手、避難の考え方を説明）、ワークショップで出た意見の採用部分を平面図において説明 意見交換：6グループに分かれ、前回のワークショップにおいて出た意見をどのように反映させたか説明、要望等について意見交換 その他：事業スケジュールについて

第6回 平成28年3月18日	38名	報告事項：基本設計図・実施設計図をスクリーンに映しながら各室の仕様について説明を行った。 質問等：太陽光の容量等 その他：建設スケジュールについて
-------------------	-----	---

【用途】 集会所（防災拠点）

【敷地面積】 5,644.11 m²

【構造・規模】 鉄筋コンクリート造 2階建 延床面積 2,251.40 m²

【主要諸室】 イベントスペース・会議室・防災研修室・支所・調理室・和室・備蓄庫等

② 震災遺構

業務名：旧中浜小学校の遺構保存整備計画策定業務

東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、永く後世の人々に防災・減災の意識・知識を向上させるため、「山元町震災伝承検討委員会」を設置し、震災伝承の在り方について検討を重ねてきました。

平成27年1月に検討委員会から提出された“保存の在り方や活用方法等”について取りまとめられた「提言書」をもとに、保存・整備方法等について検討を行いました。

○旧中浜小学校について

項目	内容
所在地	山元町坂元字久根 22 番地の 2
竣工年月日	平成元年 3 月（1989 年）
構造種別	鉄筋コンクリート造（昭和 56 年に施工された新耐震設計法により設計された建物）
階数	地上 2 階建
延床面積	2,310.12 m ²
敷地面積	17,469.00 m ²
被災	2005 年 8 月 16 日 宮城県沖地震（5 弱） 2011 年 3 月 11 日 東北地方太平洋沖地震（6 弱） 2011 年 4 月 7 日 宮城県沖地震（5 弱）

○事業内容

区分	内容
先進地視察調査（3カ所）	たろう観光ホテル（岩手県宮古市）、旧気仙沼向陽高校（気仙沼市）、南三陸防災庁舎（南三陸町）
関係法令調査 関係機関協議	関係法令：建築基準法、文化財法等 関係機関：県仙台土木事務所、県建築宅地課、亘理消防本部
住民意見徴収	・方法：パブリックコメント ・期間：平成27年7月21日～31日 ・周知方法：全戸各戸配布（HPによる周知） ・返信：19名

復興交付金申請に伴う協議	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回復興交付金事業計画申請に係る策定支援 (H27.4.27) 内容：スケジュール説明等 ・第13回復興交付金事業計画申請に係る策定支援 (H27.9.15) 内容：過去配分の調査費の活用内容説明、必要額について ・第14回復興交付金事業計画申請 (D23-2-13 防災集団移転促進事業効果促進事業 H28.1.21) 内容：保存・整備計画書策定業務費申請 申請額：8,122千円 (交付決定 H28.2.29)
--------------	--

③ 社会体育施設

業務名：(仮称)山元町パークゴルフ場整備事業

山元町震災復興計画(平成23年12月)及び山元町国土利用計画(第4次)(平成25年4月)に基づき、高齢化時代に対応した生きがいづくりや健康増進、パークゴルフを通じた世代間の交流や他地域との交流、更には、町内施設との連携から生まれる経済効果、交流人口拡大による地域活性化を目指すため、整備計画策定を前提に調査・検討を行いました。

○検討概要

区 分	内 容
先進地視察調査 (7カ所)	相馬市光陽パークゴルフ(相馬市)、鹿狼山パークゴルフ場、やく草の森新地パークゴルフ場(新地町)、大衡万葉パークゴルフ(大衡村)、山村ふれあい公園やくらいパークゴルフ場、ふれあいの森公園パークゴルフ場(加美町)、あぶくまパークゴルフ場(角田)
関係法令調査 関係機関協議	関係法令：森林法、農振法、農地法、文化財法、都市計画法等 関係機関：宮城県仙台地方振興事務所
町内の状況確認	主な調査地域：牛橋公園周辺、浅生原区、高瀬区、真庭区、町区、旧中浜小学校周辺
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公認コースとしての必要性及び導入方針の検討 ・候補地選定条件の検討 (仮称)山元町パークゴルフ場候補地の設定と適地選定調査における評価項目の抽出 ・整備事業に係る経費積算(補助事業等調査) ・愛好者団体意見交換(平成28年1月7日) ・議会(平成28年1月8日) 継続審査：産建教育常任委員会 「山元町パークゴルフ場の造成設置に関する要望書」について

IV 点検評価に対する学識経験者の意見

◇ はじめに

東日本大震災から6年目を迎え、「山元町震災復興計画」も順調に進み、目に見えて街の様子が変わってきている。つばめの杜地区に山下第二小学校が完成し、常磐線の開通も間近に迫ってきている。しかし、まだ仮設住宅から通学している子供たちがいることや、宮城病院地区の工事の完成が待たれる。これらのことから、まだまだ震災復興からの課題に取り組んでいかなければならないと思われる。

今回、昨年に続いて意見を述べる機会をいただいたので、平成26年度の評価を踏まえて、平成27年度にどのような取り組みを行い、その成果がどうだったのかを中心に見ていきたい。

1 教育委員会の活動について

教育委員会制度の改正に伴い、教育長のリーダーシップがより大きく発揮され、課題に迅速に対応できるようになった。また、首長と教育委員会が連携して教育行政の方向を協議・調整をおこない執行することから、より大きな力で推進することができるようになってきている。

- (1) 教育委員会の定例会の中で、「坂元地区地域交流センター施設整備事業」についての話し合いがなされていることは、これからの坂元地区の発展のために喜ばしいことである。この施設は、坂元地区の中心的役割を担ったり生涯学習の拠点になったりするところであり、この施設の意義と用途を踏まえ、どのような設備が必要なのか等を地域住民の声を聞きながら進めることが大切である。
- (2) 中浜小学校震災遺構のパブリックコメントの概要について議題になっているが、震災に関しては、年がたつにつれ普段の生活との関わりが薄れ、風化し、忘れ去っていくことが考えられる。中浜小学校震災遺構を恒常的に活用し、また、各種団体と連携を図り、イベントの中に組み入れたり、ツアーの中に組み入れたりしながら有効に活用していきたいものである。
- (3) 町総合教育会議が開催され、いじめ問題や教育振興基本計画策定に向けての話し合いがなされていることは、震災から5年がたち、震災対応から次のステージに向けて着実に教育行政が進められていることになる。町総合教育会議の中では、これからの山元町をリードしていく郷土愛に燃えた人材を育てる話し合いを進めてほしい。

2 学校教育の充実

(1) 山元町立山下第二小学校の再建（移転復旧工事）に向けて

山下第二小学校が、夏休み明けから予定通り使用可能となったことは、施工会社と定例会議等を開き、進捗状況を把握しながら慎重に進めていった成果だと思われる。校舎の構造で、2階にラーニングスペースを設けたことは、子供たちの個別学習やグループ学習など様々な活動を展開するのに役立つ。有効に活用できるようソフト面での充実が待たれる。また、冬期の暖房に集熱システムを備えたことは、暖房経費の削減につながる。

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会の開催について

いじめ防止に関しては、平成25年に「いじめ防止対策推進法」が制定され、学校では「いじめ防止基本方針」が定められ、いじめに対しての早期発見や相談体制、いじめ撲滅のための対策がとられてきている。地方公共団体での基本方針の策定は、努力事項になっているが、山元町において今年度決定したことで、体系的かつ計画的にいじめ防止や迅速な対応をとることができることとなる。いじめはあってはならないが、どこにでもおこり得ることであり、子供の心や体に傷を負わせ、人命にも関わることになる。地域・学校・教育委員会と力を合わせ啓発活動や教育的取り組みを推進し、いじめをなくしていかなければならない。

(3) 小学校および中学校における教育活動等の評価について

今回の各学校における教育活動等の評価については、昨年度指摘した部分が改善されているか、また、評価が次年度に生かされ、よりよい教育活動がなされているかについて見ていきたい。（P(計画)、D(実行)、C(評価)、A(改善)のサイクルが生かされているか。)

〈昨年度指摘した事項〉

- ① 各学校の教育の根幹をなす教育目標の「体」の部分が明記されていない学校があったが、今回はしっかり明記されていた。学校教育は、「知」、「徳」、「体」のバランスのとれた教育が行われることが求められている。
- ② 「主な具体的対策や方針」の欄に抽象的な言葉を記入し、どのような方策をとり、結果がどうだったのかわからなかったが、今回は各校独自の具体的な方策および成果が示されていた。
- ③ 「基礎学力の定着」、「活用する力」の部分で、数値の出ている学校と出していない学校があり、表記の仕方に共通理解がされていなかったが、今回は、それぞれの傾向がわかるように記入されていた。数値の公表については、共通した方針の下に行うことが望ましいと思われる。

- ④ 「学力の向上」に関しては、各校とも様々工夫しており、成果が上がっている。例えば、学校独自の学力向上プランを策定・活用、各種カードの作成・活用、各種プリントの作成、指導方法・形態の工夫、ノートの手指導、各種手引きの作成、標準学力調査の活用、などがあげられる。
- ⑤ 「防災」に関して、地域と一体となった防災体制を作ってほしいと指摘したが、町の防災訓練と一緒にあったり、避難所開設の訓練を行ったり、危機管理マニュアルの見直しを行ったりと改善が見られた。
- ⑥ 学校給食に関しては、各学校の報告を見ると食育に取り組んでいる項目も見られる。給食を単なる食事と捉えるのではなく、食を通しての教育であるという意識をもって取り組んでいることが伺える。調理と運搬が委託になっても、栄養士や栄養教諭による指導は継続してもらいたい。

〈評価が生かされているか（P・D・C・Aサイクルによる教育活動）〉

① 坂元小学校

- 昨年度と比較すると、全体的に評価がよくなっている。特に学校教育目標の「徳」と「体」、「学力向上」、「防災」、「開かれた学校づくり」等において向上が見られた。
- 「主な具体的対策や方策」においては、昨年度は具体性に欠けるところが見られたが、今年度は、各項目においてしっかりとした対策がとられている。「坂小学力向上プラン」の策定、宮城教育大学との連携等、昨年度にはなかった具体策がとられていた。
- 成果と課題においても、子供の実態把握を行い、外部評価を元に客観的に分析を行っている。また、残された課題については、適切な対策がとられていた。
- 具体策とその成果および課題が、分かりやすく記載されている。
- 陸上大会での入賞やみやぎっ子ルルブル推進会議からの表彰等の成果も見られる。

② 山下小学校

- 昨年同様、「いじめ防止対策」、「現職教育」、「たてわり活動」、「地域素材や人材の活用」がA評価になっている。子供たちの心の教育及び地域との連携がうまくいっていると思われる。
- 昨年と比較すると、成果としては、毎週集会時に挨拶運動を行ったり、縄跳びジャンピングボードの部材を購入したり、スキル学習の工夫等があげられる。
- 「主な具体的対策や方策」は、昨年の対策から1項目削除され、ほぼ同じであり、成果と課題についても、文言に違いはあるが内容はほぼ同じである。評価を行ったら、それを元に分析し、次年度の計画を立てることになる。つまり、課題の部分については、対策をとり、向上させるよう努めなければならない。昨年と同様ということは、課題に対して新たな対策がとられていないことになる。

③ 山下第一小学校

- 昨年度と比較すると、「活用する力の伸長」、「開かれた学校づくり」の評価が向上していた。
- 特に学力の向上に力を注ぎ、「学力向上に向けた5つの提言」を意識した指導を行う等、様々な具体策を行っており多くの成果も上がっている。
- 各項目において、成果だけでなく課題も取り上げ、その対応策もしっかり行っている。
- 不登校対策においては、楽しく学校生活が送れるように学級経営を工夫したり、分かる授業作りに努めたりしており、不登校児はいなかった。

④ 山下第二小学校

- 内容としての特徴は、校舎移転に関わることに関連して対策がとられていることである。「心のケアを含む心の教育」、「基本的生活習慣の育成」、「開かれた学校づくり」「説明責任の状況」、「町の復興を意識した取組」等に対策が盛り込まれていた。これから地域と連携した新しい学校を創造していく意気込みが感じられた。
- 学校教育目標の「学び合う子ども」と「やり通す子ども」の部分で成果が見られた。「やり通す子ども」では、スポーツテストの結果を分析し、対策を取り、効果を上げている。また、食育にも力を入れていることが分かる。
- 不登校対策の評価が向上している。対策と成果を見ると、きめ細かな対応がとられており、子どもや保護者と向き合い、全校歩調を合わせ取り組んでいる成果だと思われる。

⑤ 坂元中学校

- 評価を見ると、「キャリア教育の充実」において向上が見られ、「基本的生活習慣の育成」において低下が見られた。キャリア教育は、これからの生き方や職業観を持つために重要であり、県教委としても重点事項になっている。受け入れる職場がそう多くない地区ではあるが、学校としての取り組みに対する意識の高さがうかがえる。
- 各項目とも成果と課題の分析をしっかり行い、対応策についても一方向だけでなく多面的に迫っていることが分かる。子どもに対し、きめ細かな指導がなされていると思われる。
- 「体力向上にむけた取組」において、授業での取り組みでの提案や全校でトレーニング方法・けが防止の講習会を実施するなどして効果を上げている。スポーツテストの数値の向上も見られている。

⑥ 山下中学校

- 学校教育目標の「知」・「徳」・「体」すべてにおいて、評価の数値が増加している。特

に、「授業は分かりやすい」が前年度比で17ポイント増加したことは、教職員一人一人が授業の改善に努力した成果だと思われる。また、「学校が楽しい」という生徒も11ポイント増え、90%になったことは、学校の雰囲気がよく、望ましい教育活動が行われていることが伺える。

- 校内研修や特別支援学校との交流に関して、課題をしっかりと把握し、対策を取り対応していた。
- 特色ある教育活動の「学習塾との連携」において、新たに授業への参加を試み、成果を上げている。
- 「評価」が「C」の段階であるのに、「主な具体的対応策」や「成果と課題」が昨年度と同様である項目がある。現状維持のままではなく、適切な対応策を考え、効果を上げるよう努力していただきたい。

3 生涯学習の推進

生涯学習の各事業に関しては、年間事業が整っており、例年同様に行われ、楽しみにしている方々もおり、効果を上げている。しかし、参加者の減少している事業も見られるので、地域住民や関係者のニーズを聞きながら進めることが大切と思われる。

- 地域支援活動において、新たな試みとしてロビーコンサートが実施されている。世代間の交流を図るよい機会であった。
- 文化財の保存・保護に関しては、現在、震災復興の工事により、町内各地から多くの遺跡等が発見されている。発掘・調査・報告と大変ではあるが、貴重な文化財であり、特に線刻画に関してはよい保存方法を考え残したいものである。
- 無形文化財の保護継承に関して、文化庁の補助事業を活用することができたことは、関係者にとって喜ばしいことである。また、発表の機会が得られ、存続の意義や活動の意欲の高まりにつながるとと思われる。

◇ 終わりに

2年続けて、山元町の教育委員会の事業の点検評価に対する意見を述べさせていただく機会を得て感謝している。昨年度は、震災からの教育課題について、5年の長きにわたり一歩ずつ確実に創造ある復興を遂げられた足跡を感じながら、教育委員会、学校、教育関係者の思いや苦勞を知ることができた。今年度は、新たな課題への取り組みや山下第二小学校の移転という大きな事業の完成等、明るい未来を見据えての事業を拝見し、山元町の子供たちに夢と希望を与えることができるとの確信を強く持った。皆様の教育に対する真摯な取り組みに敬意を表す。

前仙台市立上杉山通小学校長 菅野 正彦

V 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなくてはならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。